

迷い猫のコッピヲ

作・阿部慎一郎

・登場人物

―ヤマネコ一族―

コッピヲ (ジャコウネコ)
ベローチェ (ヤマネコ)
デミタス (ヤマネコ)
スジャータ (ヤマネコ)

売れないギャグ漫画家
コッピヲの母
コッピヲの父
コッピヲの弟 (大学受験生)

―森の従業員―

ネスカフェ (サーバルキヤット)
ジャスミン・ビーバー (ビーバー)
カモミール (フクロウ)
カルデイさん (緑の鳩)
ダナモ (たぬき)
タオル (ヒョウ)

森の従業員でヤマネコ一族の親戚
森の従業員でコッピヲの幼馴染
森の従業員 (古参)
喫茶「シंगाポールナイト」のマスター
たぬきホールディングスの社長
ダンシングキヤッチャー族の末裔

―キャンプ場利用者―

イナリ (キツネ)
キャリメロ (アヒル)
アブラハム (豚)
マニキュア (オオカミ)
ソロキャンパー (ツノトカゲ)

自称・キャンプ好き
イナリの娘
コッピヲが小学生の頃の同級生?
アブラハムの彼女。
常連のキャンパー

―森の外の動物―

タンゴ (人間)
カルラ (ジャコウネコ)

コッピヲの元同棲相手
コッピヲの産みの親

―夢の動物達―

バクマン

コアラ伯爵

怪人コケコッコ

子供

・舞台

コッピヲの父・デミタスが経営する「リゾートキャンブ・野晒しの森」はかつて大勢の利用客で賑わっていた。しかし、現在は客足も途絶え、敷地内のコテージやバンガローの大半が廃墟と化していた。管理棟に併設された喫茶「シンガポールナイト」は暇なキャンブ場職員たちや受験生のスジャータの溜まり場となっている。喫茶店オーナーのカルディは「究極のコーヒーブレンド」を目指して日夜改良を続けていた。

プロローグ①

深夜0時を回った頃。

ズボンを下ろし、洋式便器に深く腰掛けるコッピヲがいる。

何度も息む声が漏れる。どうやら便秘気味らしい。

顔もなんだか眠そうだ。

コッピヲ (独り言を言うように) ……ねみー……、やだー……、やりたく無いー……。

クソが……。

コッピヲ、トイレから出て液タブが置いてある段ボール(机)に向かう。

マグカップにコーヒーパックを入れて、ケトルで沸かしていたお湯を入れ始める。

コッピヲ ……ねみー……寝たい……。寝ないのは苦しい……。寝れないのは……、悪

夢を見せる敵がいるから……。不眠から子供を救うヒーロー……。

コッピヲ、自分で淹れたコーヒーを一口飲む。

●「めざめ」が流れる。

コッピヲ これだ……。主人公はなんだろ……夢を食べるから、猥……？バクマン。

(少し笑顔になり) いや、でも、それじゃ、敵役か……？いやむしろそれで

いいか……。ということは、敵役は……。よく寝て、睡眠に貪欲な奴……コ

アラ、コアラ伯爵だな。

コッピヲ、液タブの画面に何かを書き込み始める。

コッピヲ 1日22時間寝るし。

別空間にコアラ伯爵、登場。

コアラ伯爵 俺の見る夢はいつも短く、そして儂い！ もっと、もっと長く！ 俺が描く

理想の夢を見るために、子供達から夢を奪ってやる！ ゆけ！ 秘密結社ナ

イトメアの怪人たちよ！

更に場面は移り変わって子供部屋。子供が布団の中で寝ている。

子供 ママー！ パパー！ おやすみなさい！

子供部屋に怪人コケコッコーが登場。

怪人コケコ コケコッコー！

子供 おはよう。さわやかな朝だなあ。

怪人コケコ 深夜0時前だぜ。

子供 なんだ、まだ夜中かあ。二度寝しよ。(寝る。)

怪人コケコ コケコッコー！

子供 わあ！ なんだ、もう朝？

怪人コケコ 朝な訳あるかい！

子供 じゃあ、何で起こすんだよお！

怪人コケコ お前の夢を奪って、伯爵様に献上するコッコー。

子供 僕の夢は僕のものだ！（再び寝る。）

怪人コケコ コケコッコー！ コケコッコー！ ……クックドゥドゥドゥドゥ！

怪人コケコッコーの声が反響しまくって超音波のようになる。

子供 ぎゃああああ！！！！ こんなんじゃ眠れないよお！

子供の身体から風船のような球体が浮き出て来る。

怪人コケコ これが子供の夢、無限のエネルギー！（奪う）

子供 ママー！！ パパー！！ 誰か助けてえ！

バクマン そこまでだあ！

●ゾウが吠える声。

急に音の反響が止み、バクマン、登場。

怪人コケコ 誰だ！？ 俺の叫びを止める奴は！？

バクマン、「につぼん昔ばなし」の冒頭を歌いながら、登場。

バクマン ……母の代わりに子守歌。

子供 また不審者が来たー！

怪人コケコ 現れたな！ バクマン！

バクマン 子供の成長に睡眠は必要不可欠、それを妨げるとは不届き千万！ 怪人コケ
コッコー！ その夢を俺に返してもらおう。

怪人コケコ この夢はコアラ伯爵様のものコッコー！ 食らえ！ コケコッ、

バクマン、怪人コケコッコーの喉元を掴む。

怪人コケコ ゴッ！（気管支が詰まる音）

バクマン これで鳴けまい。

怪人コケコッコー、バクマンを「かぜおこし」で飛ばし、距離を置く。

怪人コケコ くらえ！！ 手羽先カッター！

バクマンの胴体に「手羽先カッター」が炸裂！

バクマン ぎゃああああ…！！

怪人コケコ さあ！ このまま永久の眠りにつかせてやるコッコー。

バクマン ……トラパンチ！

バクマン、怪人コケコを殴り後退させる。

怪人コケコ なんだ？今の凄えパンチは…。

バクマン 俺の腕に宿る「トラ」のパワーが目覚めちまったようだな。

怪人コケコ バカナ！ お前は草食動物のはず！

バクマン バクはな、熊の胴体、象の鼻、サイの眼、牛の尻尾を合わせて神様が作り
上げた究極動物なんだよ！

怪人コケコ な、なんだと！

バクマン 俺は森羅万象、様々な動物のパワーが使える！ くらえ！ ダブルトラパ
ンチ！

怪人コケコ コケー！

バクマン ベアータツクル！ エレファントノーズ！ サイアイ！ カウテイル！

バグズライフ！ テクノポリス！ オニガワラ…！！ お前に朝はもう来
ない。

●怪人コケコ、爆発する。

怪人コケコ マルコゲ、コッコー。(倒れる。)

バクマン、怪人コケッコーから夢球を回収する。

子供 ありがとう。僕の夢を守ってくれて。

バクマン、夢球を吸う。

子供 えっ…：なんで？なんで吸った？

バクマン …：だって、バクだもの…：。バクは夢を食べる生き物…：。

子供 ねえ、返してよ。

バクマン お前に返すとは一言も言っていない。

子供 返せ！ 僕の夢だ！

バクマン バカヤロー！

バクマン、子供の腹部を殴る。

子供 うっ、

バクマン 俺を頼るなー！ 夢は自分で掴み取るもんだろー！

子供 (大泣き)

コッピヲ (大笑いして) すごえ！ なんか凄えもん生み出せたぞ！

●コッピヲのお腹の音が鳴る。

コッピヲ あはは！ いい！ すごい！

コッピヲ、再びトイレに籠り、ズボンを降ろして洋式便器に座る。

スーツ姿のタンゴが自宅に帰って来る。

タンゴ ただいま…：。

●物凄い排泄音。

タンゴ (ため息)

排泄を終え、トイレから出て来るコッピヲ。

コッピヲ

あ、おかえり。

タンゴ

ただいま。

コッピヲ

ねえ、聞いて、なんか凄えいい漫画のアイデア思いついたんだけど、

タンゴ

うん……

コッピヲ

コアラ伯爵が率いる秘密結社ナイトメアは、就寝中の子供達が見る夢の中に無限のエネルギーがあることに気づき、その夢を独占しようとしたんだ。睡眠を妨害されて困っている子供たちの前に救いのヒーロー・バクマンが現れるんだ！バクマンは怪人たちから夢を取り戻し、その夢を食べる！何故なら、バクは夢を食べる生き物だから！

タンゴ

……

コッピヲ

え、面白くない？

タンゴ

……

コッピヲ

つまんない？

タンゴ

うん、

コッピヲ

……あつそ。(不機嫌になる。)

タンゴ

……

コッピヲ

でも、少しは笑えるでしょ。

タンゴ

……しんどい。

コッピヲ

えっ

タンゴ

ごめん、その話聞かされるの、なんか、もうしんどくなっちゃった。

コッピヲ

なんで？

タンゴ

なんでって……。分かるでしょ？

間

コッピヲ

分かんない、分かんないけど、

タンゴ

この話はもうお終い。明日も仕事早いし、もう寝るね。

タンゴ、横になる。

コッピヲ

俺だってこれ、二徹で考えたんだけど、

タンゴ

……

コッピヲ

しんどいとか言うなよ！バカみてえな話でも俺、真剣にやってんだよ！

タンゴ

ごめんね、残業で疲れてるの。

コッピヲ

俺がバカみたいじゃなか！

タンゴ もう怒鳴らないで。

コッピヲ ……ごめん。

タンゴ ……。

コッピヲ ごめん、ごめんってば。

タンゴ 可愛いそうな顔してもダメ。

コッピヲ じゃあん？

タンゴ 猫被ったってダメ！

コッピヲ 今日どうしちゃったんだよお……なあ……、何か、旨いもんでも頼む？俺が奢るよ。

タンゴ ……親の金でしょ。それ、

コッピヲ まあ、そうだけど……。

タンゴ いつまで続ける気なの。こんな生活。

コッピヲ 俺だって、望んでこうなったわけじゃねえよ……。だけど、もしバクマンが週刊連載されて、ヒットさえすれば……、

タンゴ (遮って) だから、売れるわけないよ。そんな漫画。

コッピヲ ……まあ、そうだよな、俺が面白いと思っても、読者がどう思うかは、別だもんなあ。

タンゴ ……もつと面白い人……いや、猫だと思ってた……。昔は、

コッピヲ ……。

タンゴ ぜんっぜん面白くないんだもん。今書いてる漫画全部。

コッピヲ いつから思ってた。それ？

タンゴ もう随分前から、

コッピヲ なら、そう素直に言ってくればいいじゃないか。今みたいに。

タンゴ だって、あなたが不機嫌になるだけでしょ。めんどくさかったのよ。

コッピヲ ……ごめん、

タンゴ もう辞めたら？漫画書くの。

コッピヲ ……。

タンゴ 才能なんて無いのよ、あなたなんかに。

コッピヲ 分かってるさ、分かってるけど。

タンゴ けど？

コッピヲ 諦めらんないんだよ、自分の夢が、

タンゴ ……もう限界。

タンゴ、急に段ボールの上の液タブを持ち出す。

コッピヲ お、おい。

玄関を開けて、外にぶん投げる。

●遠くで「パリーン」っと液タブが割れる音。

コッピヲ (玄関の外に出て) 何すんだよ!

タンゴ 出てっ!

玄関のカギを閉めるタンゴ。

コッピヲ (慌てて玄関のドアの前へ。) ぐ、ごめん! 俺が悪かったよ……!! 君を

イラつかせるようなこともしないし! もう漫画の話もしないよお!

タンゴ そういうあなたの嘘に振り回されるのに、もう疲れたの!

コッピヲ ウソじゃないから!

タンゴ 私じゃなくて親に面倒見てもらいなさいよ。

コッピヲ ……。

タンゴ ……おばあちゃん亡くなってから帰ってないんで……。線香の一本ぐら

いあげに行きなよ。

コッピヲ 嫌だあ……。帰りたくない。帰りたくない!

コッピヲ、ドアをノックしまくる。

タンゴ (玄関を開けて) さようなら!

タンゴ、コッピヲの私物を詰めた段ボールを本人に渡して玄関を閉じる。

タンゴ、退場。

コッピヲ諦めて段ボールの中に入る。

コッピヲ にやああああん!!! にやああああん!!!

コッピヲの目の前を道行く人が通過するが、誰もコッピヲには見向きもしない。

コッピヲ、マッキーを取り出し、段ボールに「拾って下さい。」の文字を書き込む。

コッピヲ にやああああん!!! にやああああん!!!

やはり誰もコッピヲには見向きもしない。

コッピヲ やっぱダメか!

プロローグ②

タンゴが住む「都会」から遠く離れた場所にコッピヲの故郷「野晒しの森」がある。
コッピヲがタンゴの家から追い出された翌日の夜。

暗闇の中、スマホのライトだけで森を進むコッピヲがいる。
両親が住むキャンプ場の「管理棟」を指している。

コッピヲ ……ああ、やっと着いた…。

その時、サーチライトの灯りが入り、コッピヲを照らす。
サーチライトの傍にはコッピヲの母、ベローチェがいる。

コッピヲ (灯りに驚く)

ベローチェ ……コッピヲ？

コッピヲ ……母ちゃん。

ベローチェ ……おかえりなさい。

コッピヲ ただいま。

ベローチェ どうしたの？こんな時間に。

コッピヲ まあ、いろいろあったんだよ。

ベローチェ 帰って来るなら連絡してくればいいのに、そしたら車で迎えに行ったわよ。

コッピヲ ねえ、眩しいよ。母ちゃん。

○ベローチェ、サーチライトを消す。

真っ暗になる。

コッピヲ ごめん、つけて。

○サーチライト、再びコッピヲを照らす。

コッピヲ (眩しくて) や、やめて、

ベローチェ どっちなの？

コッピヲ その灯りで照らさないでくれよ。なんか、悪いことした人みたいじゃんか。

ベローチェ いいえ、あなたは何も悪くないわ。

コッピヲ でも、母ちゃん…。

ベローチェ さあ、入りなさい。お父さんが待ってるわよ。

コッピヲ「管理棟」の両親が住む家へ。
室内には大きなテーブルが置いてあり、デミタスとベローチェがいる。
ベローチェは片足を引きずるように歩いている。
弟のスジャータ、登場。

コッピヲ ただいま。

スジャータ ……兄ちゃんがおっさんになってる。

コッピヲ ……まあ、10年ぶりだもんな。

デミタス お腹空いてるだろ？

コッピヲ うん、

デミタス スジャータ、台所にコーヒーの実があるから持って来てあげなさい。

スジャータ ぺい。

スジャータ、退場。

デミタス 漫画の方はどうだ。

コッピヲ うん、順調。

デミタス 順調か……。

コッピヲ うん……でも、今、ちょっとピンチなんだ。

スジャータ、戻って来る。

スジャータ コーヒーの実が無かったんだけど、

ベローチェ おかしいわね。さつき入れたはずなんだけど、

デミタス あ、すまん、さつき俺が食べちゃった。

ベローチェ あらあら、

スジャータ 代わりに漬けてあった梅干しを持って来たよ。

ベローチェ スジャータ……。

スジャータ え、兄ちゃん酸っぱいものダメだっけ？

ベローチェ 忘れたの？コッピヲは豆以外全部アレルギーなの。

スジャータ 豆以外……？

ベローチェ そう、梅干しの「種」は口にしちゃいけないの。「豆以外」は重度のアレルギイで死ぬ。

スジャータ そうか……。ごめんね。兄ちゃん。

デミタス 他の奴持って来い。

スジャータ ペい。(去ろうとする。)

デミタス ……それで、ピンチというのは？

コッピラ 実は彼女といろいろあって……。

スジャータ 兄ちゃん、彼女いたの！？

コッピラ いたよ、そりゃ。

スジャータ その子、絶対に幸せにしなよ。(去る。)

コッピラ うるせえ！ こっちや揉めて出て来たばかりなんだよ！

デミタス ……揉めて出て来た？

コッピラ そう、「都会」の家から追い出されちゃって。

ベローチェ かわいそうに。

コッピラ お願いがあるんだ。

デミタス なんだ。

スジャータが戻って来る。

スジャータ ちよつと待って……。コーヒーの実の中身って「種」じゃない？

ベローチェ 「豆」よ。コーヒー豆って言うでしょ。

スジャータ えっ、「種」と「豆」ってどう違うの？

デミタス いいから、枝豆持って来い。

スジャータ ペイ。

スジャータ、退場。

コッピラ 金貸して欲しい。

デミタス ……。

コッピラ 「都会」で新しく部屋を借りるための金、

デミタス ダメだ。

コッピラ お願い。彼女と仲直りするまでの間だけ、

ベローチェ しばらくこの森にいたらいいじゃない。

デミタス そうだ。せっかく戻って来たんだから、ここにいなさい。

コッピラ 嫌だよ。連載に支障が出る。

ベローチェ 連載！？

デミタス とうとうやったのか？

コッピラ いや、web連載。ブログに掲載してる。

ベローチェ それでちゃんと稼げてるの？

コッピラ ノーギャラだよ！

デミタス　そのどこが順調なんだ！

コツピヲ　「いいね」がいつも10ぐらいだよ！

デミタス　お前は一体「都会」で何してたんだ。

コツピヲ　……。

デミタス　もう、充分だろ。父さん母さんも、お前が心配なんだ。

ベローチェ　そうよ。親だつて、いつまでも生きてる訳じゃないんだよ。

コツピヲ　うるせえよ！　俺がどうしようが勝手だろ！

デミタス　なんだ、親に向かってその口の利き方は！

ベローチェ　お願いだから、もう戻つて来て。漫画ならどこでも書けるじゃない。

コツピヲ　無理だよ。

デミタス　母さん……、ユアー、バット、ボオイ。

ベローチェ　……また家族で暮らせると思ったのに……。うう、（泣きそうになる。）
コツピヲ　なんだよ。

デミタス、コツピヲを玄関の外に締め出す。外は真つ暗。

コツピヲ　何すんだよ！

デミタスがサーチライトの灯りを入れて、コツピヲを照らす。

コツピヲ　だから、その灯り止めて！　犯人みたいになるから！

デミタス　現に悪いことしただろ。

コツピヲ　してねえよ！

デミタス　母さんを泣かすな！

スジャータ、登場。

スジャータ　枝豆持つて来たよ。

デミタス　それは、もいい。あれ持つてこい。

スジャータ　ふあい。

デミタス　コツピヲ、お前は今日、野宿だ。

コツピヲ　え。嫌だよ。

デミタス　一晩頭を冷やせ！

スジャータ　пей！

スジャータ、コツピヲに向かってキャンプセットを投げ入れる。

デミタス 反省するまでこの家の敷居を跨ぐことは許さんからな。
コッピヲ あ、ちよっと待って！

デミタス、玄関のドアを閉じる。

コッピヲ ふん、餓死したって知らねえからな、バーカ！

「管理棟」から離れた深い森の中。テントの設営場。
泣きながらテントのペグ打ちをするコッピヲ。

コッピヲ このテントふにやふにやして立たないよお。

森の外から心配する両親の声が聞こえる。

デミ(声) そんなんじやダメだあ！ もっと腰を入れる！

ベロ(声) 声よ！ もっと声出して！

コッピヲ そんなどこにいないで手伝ってくれよお。

デミ(声) ダメだあ！ 自分1人の力でやり遂げるんだ！

コッピヲ じゃあ、放つといてくれ！

ベロ(声) どうしてこの子がこんな目に(泣く)

デミ(声) 母さん、

スジャ(声) ……もう、過保護なんだよなあ。

デミ(声) ユアー、バット、ボオイ。

コッピヲ あく、ムカつく。死ねよ。死ね、死ね！

コッピヲ、再びペグを打ち始める。

懐中電灯を持ったソロキャンパー、登場。

ソロキャンパーは東北訛りっぽく喋る。

ソロ おめえ、こんなとこで何やってんだべ。

コッピヲ テント張ってるんですけど、

ソロ そりゃ、昼間にやることだべ。

コッピヲ まあ、そうなんすけど、

ソロ 要領わりいな、トーシロが。

ソロキャンパー、コッピラの代わりにペグを打ち始める。

ソロ ペグ打ちはこうすんだべ。

ソロキャンパーが代わりにテントを立ててくれた。
しかも、いつの間にか焚火が出来ている。

コッピラ おお、凄え、

ソロ これがプロの手際だべ。

コッピラ ありがとうございます！ (焚火にあたって) ああ……、あったけえ。

ソロ おしるこあっけど、飲むか？

コッピラ いいんですか？

ソロ もちろん。(冗談で) はい、1万円。

コッピラ (クレカ出して) カードで。

ソロ え、

コッピラ え、使えないんですか。どうしよう。

ソロ おめえ、一万は冗談に決まってるべ。これ、やるから。

コッピラ いいんですか？

ソロ 当たり前めえだ。こんなもん1万もするわけねえべ。

コッピラ すみません、普段から値段とか気にしないで買っちゃうんですよね……。なんか、こんな優しくして頂いて、本当に申し訳無いです。

ソロ いいよ、気にすんな。不審な声が聞こえたからよお、気になって駆け付けてみただけだ……。

コッピラ ……、

ソロ 何かあったの？

コッピラ ……別にたいしたことじゃないんですけど、

ソロ そういう訳にもいかねえべ、アレ、誰の声？

コッピラ はい……ちよつと両親といろいろあつて……、

ソロ 両親？アレ、お父さんお母さん？

コッピラ ええ、このキャンプ場の経営者でして、

ソロ ああ、もしかしておめえ、デミタスさんとこの長男か？

コッピラ ええ、そうですけど……。父のこと知ってるんですか？

ソロ 昔からお世話になってるだ……。おらはな、この森が今より大勢の客で賑わってた頃からキャンパーなんだ。

コッピラ じゃあ、もしかしたら、昔どこかで会ってたりするかもしれませんね。

ソロ なんだなあ……。しかし、昔に比べて、この森も寂しくなったよなあ。そう思

わねえか？

コッピヲ

ちよつと、今日戻って来たばかりなんで分かんないつす。

ソロ もう廃墟みてえだぞ。コテージやバンガローなんかほとんど使われてねえから、

コッピヲ

そうなんですか。

ソロ

ここの経営大丈夫か？

コッピヲ

え、知りませんよ。

ソロ

おめえ、このキャンプ場の跡は継がねえの？

コッピヲ

まだ、分からないです。漫画の連載もあるんで、

ソロ

ああ、そうか……。おめえ、10年前に「都会」に出て行ったんだってな。

コッピヲ

聞いたんですか？

ソロ

ネスカフエちゃんが言ってたべ。

コッピヲ

ネスカフエ……。

ソロ

おめえ、母ちゃんには謝ったか？

●風の音。

コッピヲ

何を……？

ソロ

あの足、見なかったか？

コッピヲ

見たけど、

ソロ

母ちゃん、びっこ引かねえと歩けなくなっちゃったぞ。

コッピヲ

……ああ……。

ソロ

おめえ、ホントにバカ息子だな。親に甘えてばっかで、自分がしたこと忘れ

コッピヲ

ちまったか？

コッピヲ

……。

ソロ

……自分で蒔いた種だべ。

コッピヲ

だけど、どう向き合えばいいんだよ、今更。

ソロ

そんなの簡単だべ。こうすんだよ。

ソロ キャンパー、焚き火の一つを火消し壺に入れて消火する。

ソロ

こうやりや消えるから、

コッピヲ

え、

ソロ

灰になるまで燃やし切るのもいいけど、この方が手っ取り早い。

コッピヲ

……。

ソロ

後始末は自分でしろ……。 (去ろうとする。)

コッピヲ ちよっと、1人にしないで下さいよ。

ソロ 1人が嫌なら帰るところがあるべ。

コッピヲ ……はい。

ソロ ちゃんと謝んだぞ。

ソロキャンパー、退場。

コッピヲ、焚火を消してテントの中に入る。

コッピヲ (ため息)

○ライトの明かりを消すと、森の暗闇で目の前が真っ暗になった。

コッピヲ ……暗えなあ……。

●風の音が大きくなっていき、次第に止む。

○明転すると、空間に朝の光が差し込む。

●突如、ダンシングギャッチャー族の朝の遠吠えが森中に響く。

目を覚ますコッピヲ、テントの横には誰かが置いたビニール袋があった。

コッピヲ、袋の中を見ると母親からの手紙が入っており、それを広げて読み始める。

ベロ(声) 昨夜はごめんなさい。今朝、新鮮なコーヒーの実を収穫したので食べてね。

コッピヲ 母ちゃん。

ベロ(声) あ、追伸、用を足した後にトイレを流しちゃダメよ。水が勿体ないからね。

コッピヲ そんなの分かってるよ。

ベロ(声) 今日も1日頑張りなさいよ。

ジャスミン、ネスカフェ登場。

コッピヲ ジャスミン(ぼそっと)

ジャスミン ……コッピ?

コッピヲ、気まずくなってテントの中に隠れる。

ジャスミン ねえ、何で逃げるの?

ネスカフェ、登場。

ネスカフェ　ねえ、コッピ？

コッピヲ　猫違いですよ。

ネスカフェ　猫違いだって。

ジャスマミン　そんなはずない、ネス姉も見たでしょ？

ネスカフェ　私にはハゲのおっさんにしか見えなかったよ。

ジャスマミン　え？

ネスカフェ　本当に猫違いじゃない？

ジャスマミン　でも、確かにここにいるって聞いたはずんだけど、

ネスカフェ　……あ、

ジャスマミン　え？

ネスカフェ　おーい！　おじさーん。コッピヲいたよー。

コッピヲ　にやあああああん！！！！　にやあああああん！！！！

ネスカフェ　猫被ってるからコッピだ。

ジャスマミン　コッピ！　お帰り！

ネスカフェ、ジャスマミン、笑いながらテントをボコボコ叩く。

コッピヲ　やめろボケ！

【第1幕】 1場

リゾートキャンプ「野晒しの森」の入り口にある「管理棟」には、喫茶店「シンガポールナイト」が併設されている。店内のカウンターではオーナーのカルデイさんがコーヒーを淹れる準備をしており、キャンプ場従業員のカモミールとベローチェが喫茶のテーブル席に座っている。

カウンター席ではイヤフォンをしたスジャータが受験勉強をしている。

ベローチェ ……なんだか、あの子が心配になって来たわ……。この森でちゃんと働いて行けるかしら。

カモミール 奥様、コッピワぼっちゃまの傍にはネスカフェとジャスミンをつけておきました。2人に任せておけば、きっと大丈夫ですよ。ね、カルデイさん。

カルデイ ええ、

ベローチェ そうしてもらえると安心だわ……。あの子は小さい頃から手が掛かるでしょ？目を離れた隙にすぐ転んだりしちゃうから、

カモミール そんな時期もありましたね……。

ベローチェ あの子ももう35……。私もまだまだ頑張らなきゃね。

カモミール ええ……、

カルデイ 奥様、もうすぐコーヒーが入りますよ。飲んでいけますか？

ベローチェ 大丈夫。この後すぐ用事があるの。

カモミール ダナモさんと会われるんですか？

ベローチェ そうなのよ……。スジャータ、(気づかないので)スジャータ。

スジャータ (イヤフォンを取り)なに？

ベローチェ 勉強なら家でしたら？

スジャータ ここで勉強してちゃダメ？

ベローチェ どうして？

スジャータ 自分の部屋より、ここの方が集中できるから、

ベローチェ でも、お客様が来たら、迷惑でしょ。

カルデイ 構いませんよ。

ベローチェ いいの？

カルデイ まあ、ガラガラの店内より誰かいてくれた方が、

ベローチェ それもそうね。お母さん、ちよっと大事な話して来るから、大人しくしてるのよ。

スジャータ はい。

ベローチェ じゃあ、カルデイさん、カモミールさん、この子をお願いね。

カルデイ　　いってらっしゃいませ。

ベローチエ、退場。

カモミール　コッピヲ坊ちやまは、何故戻って来られたのですか。
スジャータ　何か、親に金貸してって言った。

カルデイ　　：：よっぽど、都会で追いつめられたんですねえ。

カモミール　そのぐらいは当然でしょ：：、コッピヲ坊ちやまがしたことを思えば……。
カルデイ　　カモミールさん、

●外でバスのクラクションの音。

カルデイ　　：：お客様がいらっしゃいましたよ。

カモミール　お迎えに行って参ります。

カルデイ　　いってらっしゃいませ。

カモミール、退場。

森に従業員服を着たネスカフェ、ジャスミン、コッピヲが登場。

コッピヲ　　やだ！　働きたくない！

ネスカフェ　自分で決めたことでしょうが！

コッピヲ　　一言も言ってねえよ！　そんなこと！

ジャスミン　だって、おじさんから聞いたよ。

コッピヲ　　勝手に決められたんだよ！

ジャスミン　えく！　同意じゃ無いの：：。　どうする。ネス姉？

ネスカフェ　いいからやるよ！

コッピヲ　　何すんだよ。今から、

ネスカフェ　「リゾートキャンプ・野晒しの森」名物、キャンプファイヤー。

コッピヲ　　客少ねえのに、盛り上がるわけねえだろ！

ジャスミン　いいから、ネス姉が今からお手本を見せるよ。

ネスカフェ、持っている斧で薪を割る。

ネスカフェ　こうすんだよ。コッピやってみ。(斧を渡す。)

コッピヲ、薪割りをやらされるが、誤ってジャスミンとネスカフェを斬りかける。

ネスカフェ クソ野郎！ ……貸してみ。

ネスカフェ、斧をコッピヲから奪い、餅つきのリズムでどんどん薪を割っていく。
その隙にコッピヲ、森の奥へ退場。

ネスカフェ こうすんだよ！

ジャスミン ……あれ、いない。

ネスカフェ 出たよ。コッピの逃げ癖。

ジャスミン 昔から変わらないよねえ。

ネスカフェ 逃げてもお咎め無しなのがいけないんだよ。

ジャスミン おじさん、コッピに甘すぎだよね。

ネスカフェ 余計ダメ猫になっちゃう……。

ジャスミン ……とはいえ、どうする？

ネスカフェ いいから殺るよ。

ネスカフェ、斧を持ったまま森の奥へ退場。

ジャスミン ネス姉、殺す時は優しくね……。

ジャスミンも続いて、退場。

スジャータ (漫画を読みながら) ……そういえば、今日、ダナモさん来てるんだっけ。

カルデイ そのようすな。

スジャータ 会社経営のこととか教えてくれないかな。

カルデイ それはないでしょうな。

スジャータ なんて？

カルデイ ダナモさんはお忙しい方ですから、

スジャータ まあ、そうなんだけどさ、

カルデイ そんなことより、受験勉強に集中されては？

スジャータ へいへい……。(所定の位置に戻す。)

カモミールがキャンプ場の利用客のマニキュア、アブラハムを連れて戻って来る。

カモミール こちらがリゾート・キャンプ「野晒しの森」が一望できるデッキでございま
す。

マニキュア ふわああああ、綺麗な景色！
カモミール そう言って頂けますと幸いです。
マニキュア こんな自然に囲まれていると、心なしか空気も美味しいね。
アブラハム うん、ん？
マニキュア どうしたの？
アブラハム なんか匂う。
カモミール コーヒーの香りじゃないですか。
アブラハム たぶん、そうかも。
カモミール 飲んで行かれます？淹れたてですよ。
マニキュア どうする？
アブラハム コーヒー一杯で17キロカロリー…大丈夫だ、問題ない。
マニキュア マスター、コーヒー2杯お願い。
カルデイ かしこまりました。
カモミール じゃあ、せっかくなので、ここで打合せしますか。
マニキュア はい！

カモミール、喫茶店の席にマニキュアとアブラハムを座らせる。

カモミール 本日の宿泊はグランピングでございますね。
マニキュア はい、そうなんです。オシャレな室内がとても楽しみです。

アブラハム、背負っているリュックからダンベルを取り出し腕の筋トレを始める。

カモミール そう言って頂けますと幸いです…。アクティビティは窯焼きピザ体験のみ
で伺っておりますが、他にご希望はございますか？

マニキュア フィールドアスレチック！

カモミール ……申し訳ありません。先月の台風の影響で只今ご利用頂けません。

マニキュア じゃあ、バギーで巡る森林ツアー！

カモミール 燃料価格高騰の影響で休止中でございます…。

マニキュア カヤック体験！

カモミール 全部壊れてますね。

スジャータ 早く直した方がいいんじゃない？

カルデイ 坊ちゃま（しっ！）

カモミール 今ですと、薪割り体験などいかがでしょうか。

マニキュア あゝ、楽しそう！

スジャータ マジかよ。

マニキュア でも、ちょっとだけ悩んでもいいですか。

カモミール かしこまりました。お申込みの際は内線で管理棟までご連絡下さい。

マニキュア ありがとうございます。

カモミール では、本日の流れを確認させて頂きますね。ランチはご自身で焼いたピザで、
ディナーはブランド豚を使用したバーベキュー、

アブラハム、ダンベルを落とす。

アブラハム バーベキュー。

カモミール 申し訳ございません！ 私としたことが、とんだ暴言を。

アブラハム いいえ……、むしろ興奮してしまいました。

マニキュア おい、豚。

アブラハム 俺もバーベキューにしてもらえませんか？

カモミール ええ？

マニキュア 調子乗ってんじゃねえよ。クソ豚！

アブラハム ブヒイ！

マニキュア てめえみたいな貧相な身体誰が食うんだよ！

アブラハム だけど、食われてえ……、早く食われてえよ。マニキュアちゃん。

マニキュア 私のことはいいから、その上腕二頭筋に聞いてみな。

アブラハム おい！ 俺の筋肉、食べるのかい？ 食べないのかい？ どっちなんだい！ 食

ーべない！

マニキュア 分かかってんじゃねえか。

アブラハム ごめん、

マニキュア 今はキャンプを楽しみましょう。

アブラハム うん、

カルデイさんが、コーヒーを運んで来る。

カルデイ お待たせ致しました……本日のコーヒーは「シエラネバダ・アソグラン」で

ございます。レモンやミントのような香りと甘みのある心地よい酸味をお楽

しみください。

マニキュア わあ！ おいしそう！

カルデイ では、野晒しの森で香り豊かな時間をお過ごし下さい。

カルデイ、カウンターへ去る。

マニキュア、アブラハム、コーヒーの匂いを嗅ぐとむせる。

2人とも鼻をつまんで飲もうとするが、諦める。

マニキュア マスター、テイクアウトにしてもらっても平気？
カルデイ かしこまりました。

カルデイ、机の上のコーヒーを回収する。
コッピヲ、森から喫茶店に登場。

カモミール では、話の続きは歩きながらにしましょうか。
マニキュア はい。

アブラハム あ、コッピヲ。

コッピヲ ……。

アブラハム 久しぶり。

コッピヲ ……。

カモミール 知り合いですか？

アブラハム 俺だよ、アブラハム。小学校の頃、同じクラスだった…。アブラハム。

コッピヲ 誰だよ。

アブラハム アブラハム。

コッピヲ 誰だよお！

外から斧を持ったネスカフェ、ジャスミン、登場。

ジャスミン 逃げてコッピ！

ネスカフェ 逃げるなコッピ！

コッピヲ、管理棟へ退場。

ネスカフェ、ジャスミンも後を追って退場。

アブラハム あいつもたくましく生きてんだなあ。

マニキュア 本当に同級生？

アブラハム うん、

カモミール すみません、コッピヲ坊ちやま、小学生の頃不登校気味でしたから、

カルデイ こちらテイクアウトのコーヒーでございます。

マニキュア ありがとうございます。

カモミール じゃあ、行きましょうか。グランピングはこちらでございます。

カモミールに連れられてマニキュア、アブラハム、森へ。

マニキュアがテイクアウトのコーヒーを捌け際に捨てると、地面の雑草が溶けた。

カモミール、マニキュア、アブラハム、退場。

入れ違いに森からイナリとゲームに夢中のキヤリメロ、登場。

喫茶店へ。

イナリ マスター。

カルデイ いらつしやいませ。

イナリ なんか、除草剤使ってる？

カルデイ いえ、

イナリ あそこだけ地面に穴空いてたよ。

カルデイ すみません、従業員に注意します。

イナリ キヤリメロ、ちよつとお父さん、斧借りて来るから、ここで待ってるよ。

(触れようとする。)

キヤリメロ 触んな！ バカ！

イナリ ……マスター、この子にコーヒーを頼む。

カルデイ かしこまりました。

イナリ、退場。

匂いを嗅きながらタオルが森に登場。

カルデイ いいんですか。

キヤリメロ は？

カルデイ 向こうにいるじゃないですか、今がチャンスですよ。

キヤリメロ 何あれ？

カルデイ 森の原住民・ダンシングキャッチャー族です。

キヤリメロ ダンシングキャッチャー族？

カルデイ この森で絶滅した「便獣」を追い続ける悲しき狩人です。

タオル、匂いを追いながら喫茶店の中に入って来る。

カルデイ 今なら一緒に記念撮影してくれるかもしれません。本当にいいんですか。

キヤリメロ いいよ、別に興味ないし。

タオル (ピンと来て。) あばば！ あばばば！ ジャコウネコ！ ジャコウネ

コ！ ニーブラ！

カルデイ あ、

タオル、森へ退場。

カルデイ 惜しいことをしましたな。奴は滅多に姿を現すことがありません。もしかすると、この森に便獣がいるのかもしれないなあ。

キヤリメロ どうしてあんなことしてんの？

カルデイ ダンシングキヤッチャー族の習わしで「便獣」を狩らないと成人として認められないのです。

キヤリメロ 便獣？

カルデイ うんこが金になる動物達です。

キヤリメロ おじさん何言ってるの？

カルデイ 私にも分かりません。この森の伝承ですから、

キヤリメロ 変な伝承。

スジャータ 僕もそう思う。

カルデイ キャンプの思い出に「便獣クッキー」と「キヤッチャー揚げ」はいかがですか。

キヤリメロ 要りません。別にキャンプとか興味ないし……、楽しいのは、あいつだけなんです、

カルデイ そうですか……。しかし、アレですよ。大自然で過ごす時間は我々を開放的にしてくれます。普段言にくい事を話すには、絶好の機会でしょうなあ。

キヤリメロ ……。

カルデイ 小言が過ぎましたな。失礼致しました。

キヤリメロ いえ、大丈夫です。

カルデイ 森で過ごす時間が少しでも楽しくなることを心より祈っております……。本の日のコーヒーは「シエラネバダ・アソグラン……、

キヤリメロ お砂糖とミルクありますか？

カルデイ 無い……。そんなもん無い。

キヤリメロ え？

カルデイ ブラックでお楽しみ下さい。

キヤリメロ え……。

キヤリメロ、仕方なくコーヒーを飲もうとする。

キヤリメロ 酸っぱ！ 何コレ！？ 酸っぱ！ ……全然飲めないよお。オレンジジュースちようだい。

カルデイ クソガキ。

キャリメロ あ？

カルデイ ……かしこまりました。

受付から斧を持ったイナリが戻って来る。

イナリ お待たせ。

キャリメロ ……うん。

イナリ、会計を済ますためカウンターへ。

カルデイ こちら、オレンジジュースでございます。

イナリ なんだ、コーヒー飲めなかったのか。

キャリメロ うん。

イナリ すみませんね、マスター。

カルデイ いいえ、お子様には早すぎたようですね。

イナリ 行くぞ、キャリメロ、こう見えてもお父さん、アウトドアの男なんだ！

キャリメロ うん……。

イナリ、キャリメロ、森の薪割り場へ。

イナリ いいか、父さんはこういうの得意なんだぞ。

薪割りを得意げに見せようとするイナリ。

カモミール、登場。

キャリメロ つまんない！ コテージは埃臭いし、アスレチックは壊れてるし、コーヒー

もヤバイ！ やれること無いじゃん！ このキャンプ場！

キャリメロ、退場。

イナリ キャリメロ！

イナリ、退場。

スジャータ なんでコレで経営成り立ってるの？

ダナモ、登場。

カモミール (気づいて) あらあら、ダナモさん、もうベローチェさんには会われましたか？

ダナモ ……おかしいだなも。

カモミール どうされました？

ダナモ 今月のキャンプ場利用者は20人。どうして経営が成り立ってるも。

スジャータ まずいですよね、絶対。

カモミール マスター、一杯。

カルデイ かしこまりました。

カモミール そんな心配なさらなくても大丈夫ですよ。

ダナモ 何度説明されてもおかしいも…。

カルデイ 本日のコーヒーになります。

カモミール さあ、コレでも召し上がって一息つきましよう。

ダナモ そうするも。

ダナモ、コーヒーを飲む。

その様子を固唾を飲んで見守るカルデイとカモミール。

ダナモ ……まずい。

カモミール もう一杯？

カルデイ かしこまりました。

ダナモ、カルデイが作ったコーヒーを飲む。

ダナモ ま、まずい。具合が悪くなって来ただなも。

カモミール 大丈夫ですか？

ダナモ く、苦しい…。

ダナモ、退場。

カルデイ どうしたら、私のコーヒーでみんなが一息ついてくれるんだ。

カモミール 欲を捨て清らかな心で淹れるの。無欲になりなさい。

カルデイ 分かりました。

一方、森にネスカフェ、ジャスミン、コッピヲ、登場。

ネスカフェ トイレ掃除やるよ。

コッピヲ やだー！ 謎にデカイ虫がいるー！

ジャスミン 電話番号やってもらうよ！

コッピヲ 知らない人と話すの怖いー！

ネスカフェ じゃあ、食材の買い出しに行くよ。車出して、

コッピヲ 俺、車の運転とか久しぶりだけど、

ネスカフェ いいからやるよ。

車に乗る3人。コッピヲがアクセルを踏むと、

●壁に衝突する音。

ネスカフェ このハゲエエエエエー……ツツツ！！！！

コッピヲ いや、すみません、

ネスカフェ ちーがーうーだーろー……！

コッピヲ すいません、なん……。

ネスカフェ ちがうだろー……！

コッピヲ すいません、あの……

ネスカフェ お前が受けた痛みがなんだ！ あたしが受けた痛みがどれくらいあるかお前

がわかるかこの野郎！！！！

ネスカフェ ……こんなんじゃ仕事にならないよ。

コッピヲ すみません。

ネスカフェ やる気無いなら、都会に戻りな。

コッピヲ でも、親が決めたことだから、

ネスカフェ このごく潰しが！

事故の音を聞きつけてデミタス、登場。

ネスカフェ (デミタスに気づき) あ、すみません……。

ネスカフェ、退場。

デミタス ケガは無いか。

コッピヲ うん、

デミタス 初日にいろいろ任せすぎたな……。

コッピラ　ごめんなさい。
デミタス　他の仕事はもういいから、ばあちゃん家に行きなさい。
コッピラ　えっ
デミタス　遺品の整理を頼む。
コッピラ　……。
デミタス　まだいろいろ残してあるぞ。お前が帰って来なかったから。
コッピラ　父ちゃん……。
デミタス　お線香あげるの忘れるなよ。
コッピラ　……。何か、急に優しいね。
デミタス　家族だからだよ。

一方、森ではイナリとキヤリメロがその辺の木を集めて小さな焚火をしていた。
キヤリメロは相変わらずゲームをしている。

イナリ　もうすぐマシユマロ焼けるぞ。
キヤリメロ　要らない。
イナリ　本当はこんなちっちゃな火じゃなくて、もっと大きな火でやる予定だったんだ……。それで川で釣った魚を焼いて……。
キヤリメロ　一匹も釣れて無いじゃん。
イナリ　……。そうだな。

【第1幕】 2場

生前祖母が住んでいたキャンプ場のコテージ。

コテージの部屋には、たくさんの本が積まれている。

軍手を着用したコッピラ、スジャータ、ジャスマン、登場。

スジャータ 何で僕まで付き合わなきやなんないんだよ。

ジャスマン つべこべ言わずにやるよ。

スジャータ めんどくさくなつたのを僕らに押し付けただけだろ。どうせ。

コッピラ そうなの？

スジャータ そうだよ、父ちゃんも母ちゃんも全然手えつけてねえし。

ジャスマン 無駄口叩かないでやろうよ。

スジャータ しょうがねえなあ。

ジャスマン じゃ、作業開始で。

3人それぞれ、遺品整理へ。

スジャータ 本多くね。

コッピラ 好きだったからなあ、ばあちゃん。

ジャスマン (作業しながら) コッピ、

コッピラ ん？

ジャスマン どう勤務初日は？

コッピラ ああ、そういや、そうか……。

ジャスマン 嫌にならなかった？

コッピラ そうだなあ、久しぶりに働いたけど、自分の仕事の出来なさにうんざりしたかな……。

ジャスマン その気持ち分かるよ。私も仕事でよくハマしちゃうんだ。

コッピラ ダム？

ジャスマン ……ダム。

コッピラ そうか。

ジャスマン 一生付き合わなきやいけない問題だから……明日からも一緒に頑張ろう。

コッピラ うん、

スジャータ、一冊のスケッチブックを拾って中身を読む。

スジャータ ねえ、コレ捨てていい？　なんか、汚え絵が描いてあんだけど、
ジャスマミン 見せてよ。

ジャスマミンは一冊のスケッチブックを眺め始めた。

ジャスマミン ちよつと見てコッピ！　昔みんなで書いた絵だよ！

コッピヲ え、いつの？

ジャスマミン 小学生の時の！

コッピヲ あー、懐かしい。

スジャータ 兄ちゃん、昔から絵書いてたんだ。

ジャスマミン そう、ネス姉とおばあちゃんと一緒によくお絵描き大会やったのよ。

スジャータ へえ、そうだったんだ。

ジャスマミン スジャータはその頃、まだ生まれてなかったもんね。

ネスカフェ、登場。

ジャスマミン ネス姉……

ネスカフェ コッピ、さっきは怒ってごめんね……。一緒に断捨離しようぜ。

ジャスマミン 遺品整理な。

コッピヲ ……うん、やろう。

ネスカフェ うん、

ジャスマミン ネス姉、これ、見て、小学校の頃書いた絵が出て来たよ。

ネスカフェ え、懐かしい。

ジャスマミン コレ、あたしが書いた絵。

ジャスマミン、3人に絵を見せ始める。

ネスカフェ 何コレ……

スジャータ 奇怪な絵だ。

ジャスマミン これが「20世紀のピラミッド」……「御母衣ダム」。次が、日本最大のア

ーチ式の「黒部ダム」。最後に、遊覧船も運航する日本一高い「奥只見ダム」

3人 全部ダムの絵！

ジャスマミン この3つはね、日本3大ダムと呼ばれてるの。これに匹敵するダムを作るの
が、私の夢なんだ。

コッピヲ へー、そんな夢あったんだ。

ジャスマミン そう、

ネスカフェ あたしコレこんにやくだと思ったよ。

3人、笑う。

ジャスマミン まあ、私の絵はこのぐらいにしといて、次はコッピヲの絵。
コッピヲ 俺のはいいよ。

ネスカフェ 謙遜しなくていいよ。味があつて私は好きよ。

ジャスマミン 私もコッピヲが書いてる漫画読んでるんだ。

コッピヲ え？

ネスカフェ 私達、コッピヲの漫画の読者だよ。

コッピヲ 10いいねの内の2人……？

ネスカフェ よくあんなギャグ思いつくよね。

ジャスマミン 支離滅裂過ぎるけど、あんな発想出来るの凄いと思う。

コッピヲ 褒めたつてなんも出ねえよ。

ネスカフェ あはは、照れてる。

コッピヲ そうか……こうやって夢中で絵を書いてたんだよな。あの頃。

ジャスマミン ちゃんと漫画家になれて良かったね。

コッピヲ ……うん。

スジャータ ……売れてる漫画家さんなら、親に金貸してくれなんて言わないと思うけど、

ネスカフェ えっ、

ジャスマミン そんなこと言ったの？

コッピヲ 黙れ。

スジャータ ちよつと褒められたぐらいでなんだよ。どうせ漫画なんて自己満で続けて来

たんだろ。

コッピヲ そんなんじやねえよ！

スジャータ いいなあ、兄ちゃんは遊んでばかりで。

コッピヲ 俺だって、ちゃんと仕事にしようと思つて、真面目に頑張つて来たつもりな

んだよ！

スジャータ 売れて無いなら無職と一緒にじゃん。

コッピヲ てめえ！

コッピヲ、スジャータの胸倉を掴む。

スジャータ ひいひい！

ジャスマミン コッピ！ 落ち着きなよ！

スジャータ そうやってまた母ちゃんの時みたいに殴る気か！

コッピヲ、掴んでいたスジャータを離す。

コッピヲ (冷静になって) ……いい、今のは違うんだよ。そういうつもりじゃ…。

スジャータ、退場。

ネスカフェ ……知ってるよ。おばさんの足のこと。

ジャスマミン うん、深い理由まで分からないけど、みんな知ってる。

コッピヲ ……なんで。

ネスカフェ こんな狭い森なんだから、当たり前じゃん。

コッピヲ どうしよ…。

ネスカフェ ……帰って来たばかりなんだから、これからだよ。

ジャスマミン 漫画は頑張ってるんだから、仕事も頑張る。

コッピヲ ……うん、

ネスカフェ さあ、断捨離しよ。

ジャスマミン 遺品整理ね。

3人遺品整理を再開する。

コッピヲ、拾ったノートから、ひらりと1通の手紙が落ちる。

拾い上げて手紙を読み始めるコッピヲ。

遠くにカルラの姿が現れる。

カルラ コッピヲ…。

ネスカフェ ジャスマミン！

コッピヲ、はっとして、手から手紙を落としてしまう。

カルラの姿が消える。

ジャスマミンがゴミ袋の中身を全て出し、本のダムを作っていた。

ネスカフェ せっかく整理したのに何散らかしてるの！

ジャスマミン ……ああ、ダム作っちゃった！ ダム作っちゃった！

ネスカフェ これじゃ、意味ないでしょ。

ジャスマミン だって、ビーバーだもの。ビーバーはダムを作る生き物…だから、許して。

ネスカフェ ビーバー！ (怒)

一方、夜の森。便獣の匂いを追ったタオル、登場。
その背後にカルデイ、登場。

カルデイ ……便獣は？

タオル ……ノーキャッチャー…。

カルデイ そうか、残念だったな。

タオル う、う、ああ…、あく！（泣く）

カルデイ 泣くな、キャッチャー。

タオル ノコリガガ、ノコリガガアルノニ、ミツカラナイヨク。

カルデイ 本当に便獣がいるんだな？

タオル ビンビンよ。

カルデイ ……。

タオル アタシハイツオトナニナレルンデスカ？

カルデイ どこにいるんだ…。俺が追い求めるコーヒー豆を産む猫！

一方、テントでふて寝に入るコッピヲ。

森の外から液タブを持ったタンゴ登場。

コッピヲ なんているの？

タンゴ コッピヲ、ごめんなさい。

コッピヲ いいよ、別に…。俺こそ悪かったよ。

タンゴ ごめんなさい。

コッピヲ 新しい奴買い直してくれたんだ…。ありがとう。

タンゴ、液タブを割る。

コッピヲ ……え、何がしたいの？

タンゴ ごめんなさい。

コッピヲ 何を謝りに来たの？ここまで、

タンゴ ごめんなさい。

● 「にんげんっていいな」のイントロが流れる。懐からマイクを取り出し、歌い始めるタンゴ。

バクマン、スジャータ、ネスカフェ、ジャスミン、子供、登場。

コッピラ バ、バクマン。

バクマン 35にもなつて夢見てんじゃねえ！ おめえみたいな親不孝者！ 俺が成敗してやる！

タンゴ 大丈夫、あいつの夢は私が始末しといたわ。

バクマン ええ！？ それならそうと早く言ってよ。もうお腹ペコペコだよお。

タンゴ 見て。ちよūdいところ、キラキラした夢を持った子供たちがいるわ。

バクマン 君の夢を教えて。

スジャータ 僕が父さんの跡を継ぐんだ！ 大学で経営学を学んで、野晒しの森を立て直

すんだ！ 目指せ！ 難関私立！

バクマン 夢、食べちゃおうね。 (食べる。)

コッピラ スジャータあ！

スジャータ 勉強するのめんどくせ。この森はお終いだ。

バクマン 君の夢は？

ネスカフェ あたし、王子様のお嫁さんになって大きなお城に住むんだ。

バクマン いただきま。 (食べる。)

コッピラ ネスカフェ！

ネスカフェ マatchingアプリでも始めようかなあ。

バクマン 君の夢は？

ジャスミン あたし、世界一大きなダム作って、野晒しの森を沈めたい。

コッピラ ジャスミン・ビーバー！

ジャスミン 何がしたいの？あたし？

コッピラ やめてくれ！ みんなの夢まで奪わないでくれ！

バクマン、子供 (ウサギ) の耳を引きちぎる。

子供 あゝ！

バクマン ……だって、バクだもの…。バクは夢を食べる生き物…。

タンゴ (爆笑)

バクマン、タンゴをお姫様抱っこして退場。

コッピラ みんなから夢を奪ったら、つまらない大人になるしかないじゃないかあ…。

○暗転

【第2幕】 1場

翌日。

カウンター席にイナリが座っている。

テーブルにはコッピヲ、アブラハム、マニキュアがいる。

カルデイさんは豆の買い出しで喫茶店にはいない模様。

コッピヲ ……という夢を見たんだ。

アブラハム つまり、自分が書いた漫画のキャラクターに彼女を取られたと。

コッピヲ そうなんだよ。テントで寝るとさあ、疲れも取れないし、変な夢ばかりみるんだよねえ。

アブラハム 精神的に追い詰められてんだよ。

コッピヲ どういう意味？

アブラハム 漫画、上手くいつてないんじゃないの？

マニキュア よしなさい。

コッピヲ ……。

アブラハム 夢は深層心理をあらわすって言うからね。そのバクマンって奴が、漫画。つまり、自分の夢の象徴。

コッピヲ そうなのか。

アブラハム 夢の中で自分の夢に苦しめられるなんて皮肉だねえ。

コッピヲ ……何も言えねえ。

アブラハム で、その彼女が大事なものの象徴。

マニキュア 何か心当たりありますか？

コッピヲ 彼女は彼女だよ。

アブラハム え？ 彼女本当に居るの？

コッピヲ いや、居るでしょ。

マニキュア あゝ、なるほど。

アブラハム それも夢かと思った。

コッピヲ おい、

マニキュア どんな彼女さんなんですか？

コッピヲ 元はね、俺の漫画のファン。

マニキュア へえー。

コッピヲ 何回かデートする内に、俺がなし崩し的に彼女の家に住むようになった。

マニキュア やるう。

コッピヲ 作品の相談とかめっちゃ乗ってくれてさ、それがモチベーションになって漫

画も頑張ってたかなあ……。

マニキュア いい彼女さんですね。

コッピヲ ただね、怒らすとめっちゃ怖い。急に物投げて来たりするから、

マニキュア コッピヲさんのことが好きじゃないとそんなことしませんよ。

コッピヲ え、止めて欲しいんだけど。

マニキュア 本当に好きじゃないと、そんな感情的になったりしませんよ。

アブラハム 結婚はしないのか？

マニキュア ぶっこみ過ぎよ。

コッピヲ ……したかったけど、愛想尽かされちゃって今は音信不通だし、もうダメかも。

マニキュア それも、あえてそうしてるだけかもしれませんよ。

コッピヲ ええ？

アブラハム 女の心は海より深い。

コッピヲ 俺のことはいいんだよ。お二人は？どうなの？上手く行ってるの？

マニキュア 結婚は無いかなあ。

アブラハム うん。捕食関係だから、

コッピヲ ああ……、そういう……。

マニキュア 結婚するなら、オスのオオカミがいい！

アブラハム おお、そうか。結婚したら俺を仲良く分けて食ってくれ。

コッピヲ 良かったな。いい肉食獣に出会えて、

アブラハム これもお前のお陰だ。

コッピヲ は？

カモミール、登場。

カモミール コッピヲ坊ちやま、お仕事はどうされたんですか？

コッピヲ え？ネスカフェが自分でやった方が早いって言うからさ、任せてこっちに来ちゃった。

カモミール 知りませんよ。旦那様に怒られても。

コッピヲ じゃあ、戻るよ。

カモミール ……。

コッピヲ お前のこと全然思い出せないけど、俺の話聞いてくれてありがとう。イブラヒム。

アブラハム アブラハム、俺、アブラハム。

コッピヲ、管理棟へ退場。

カモミール (イナリに) うちの従業員が騒がしくてすみません。
イナリ いえ、大丈夫です……。

ベローチェ、登場。

アブラハム あ、コッピヲの母ちゃん、
ベローチェ ……。

アブラハム お久しぶりです！ 小学校の頃、コッピヲさんと同級生だった。アブラハム
です。

ベローチェ ……誰？

アブラハム アブラハムです。

ベローチェ ……。

カモミール あなた、コッピヲ坊っちゃん何なんですか？

アブラハム アブラハム、小学校の頃の同級生、

カモミール いるわけじゃないですか……！ そう言ってヤマネコ一族に近づこうと
しても、無駄ですからね。

マニキュア ちよつと、疑われ過ぎて、不審者だと思われちゃってるよ。

アブラハム あの、新手の詐欺の手口とかじゃないんです。ただ、小学校の頃の、

カモミール 二度とその言葉を口にししないで！

アブラハム ……いい罵声。

●マニキュアがアブラハムを爪で引っ掻く。

アブラハム ブヒイ！

マニキュア すみません、パートナーを誘惑しないでもらえますか？

カモミール いえ、別にそんな意図では……。

コッピヲ、登場。

コッピヲ 大丈夫か！ イブラヒモ！

アブラハム コッピヲ！

コッピヲ ケガは無いかな？

アブラハム こんなの軽いスキンシップだ！ 気にしないでくれ。

コッピヲ そうか、心配したぞ。アブラハムうう。

アブラハム 急にどうしたんだよ？コッピヲ、

コッピヲ 自分の居場所が欲しいんだよ……。
アブラハム そうか、俺でよければお前の居場所になるぜ。
コッピヲ ありがとう。
カモミール コッピヲ坊ちやま、お仕事は？
コッピヲ 追い返された。
ベローチェ ちゃんとお仕事はしなきゃダメでしょ。
コッピヲ してるけど……、何でここにいるんだよ。
ベローチェ あなたのことを心配になって来たの。
コッピヲ (ぼそっと) 余計なお世話だよ。
ベローチェ え？

ジャスミン、登場。

ジャスミン コッピ今、手空いてる？
コッピヲ ……ああ、いいけど、
ジャスミン キャリメロちゃん探すの手伝ってよ。
アブラハム どうかしたんですか？
ジャスミン ……まあ、ちよつと親と逸れたアヒルがいるみたいで。
アブラハム え、みんなで探した方が良くないですか？
ジャスミン 協力して頂けるんですか？
マニキュア この子鼻が利くので使ってあげて下さい。
アブラハム ブヒイ！
ジャスミン ありがとうございます。

コッピヲ、ジャスミン、アブラハム、マニキュア、森へ退場。

ベローチェ ……なんだか、不安だわ……。やっぱり、あの子は漫画家になるべきよ。
カモミール 奥様？
ベローチェ 昨日、車の運転で事故に遭ったんでしょ。下手に無茶な仕事をさせるよりも、
カモミール ですが、奥様……コッピヲ坊ちやまの将来を心配して、森に就職させたので
は？
ベローチェ そんなことないわ。私は最初からコッピヲの夢を応援してるの。反対してい
るのは、デミタスだけよ。
カモミール そうだったんですね……。

管理棟からネスカフェ、登場。

ネスカフェ あれ、コッピは？

カモミール 他の業務に行ったわよ。あなたが追いついたんじゃないの？

ネスカフェ え、この後、手伝って欲しいって言ったんだけど、

カモミール あら、

ベローチェ うちの息子が迷惑掛けてごめんね。

ネスカフェ いえ、いいんですけど……、今日、コッピの様子おかしくありません？

ベローチェ そうかしら？

カモミール いつもの逃げ癖じゃないですか？

ネスカフェ なんかもそれとも違うような。

ベローチェ やっぱり漫画を書きたくて仕方無いのね。

ネスカフェ そうですよ。コッピ、才能あるから（カウンターの上の漫画を取って）こ

んなとこで燻ってるべきじゃない。

イナリ 息子さん……、漫画家なんですか。

ベローチェ あなたは？

イナリ イナリと言います。実はこういうものでして……。

イナリ、ベローチェに名刺を渡す。

ベローチェ 漫画の編集者……。

イナリ 実はそうなんです。

ネスカフェ ええ、凄く偶然ですね！

イナリ 良かったら、息子さんの漫画読んでみたいんですけど……。

ベローチェ そこにも置いてありますし、今、書いてるものもあるので、家から持って来ますね。

イナリ あ、はい。

ベローチェ ネスカフェちゃん、手伝って。

ネスカフェ はい。

ベローチェ、ネスカフェ、管理棟へ去ろうとする。

向かい側より、デミタス登場。

デミタス 母さん、どこに行くんだ？

ベローチェ コッピの漫画取って来る。

ネスカフェ イナリさん、漫画の編集者さんなんですって、

ベローチェ、ネスカフェ、退場。

デミタス まったく、余計なことを……。

イナリ なんか、すみません。

デミタス うちの息子はここの職員です。漫画家なんかになりませんからね。

イナリ は、はい。

デミタス、テーブル席に座る。

カモミール イナリさん、キャリメロちゃん探さなくていいんですか……。

イナリ 心配ですけど、2人きりになるとどうしていいか分からなくて……。

カモミール そんなこと言ってる場合ですか。私もついて行くんで、一緒に探しましょう。

イナリ ……すみません、本当に。

カモミール、イナリ、森へ退場。

しばらく沈黙が続き、森からタオル登場。

タオル キヤツチャー。

タオル、匂いを嗅ぎながら喫茶店へ。

タオル (匂いを嗅ぎながらデミタスに寄る。)

デミタス あっちいけ！

タオル キヤツチャー。

ダナモ、登場。

ダナモ ダンシングキヤツチャー族……。

デミタス ……。

ダナモ やはりそういうことだなも……。

デミタス これは違うんですよ。探すフリですから、

ダナモ この裏切り物お！

デミタス だから、勘違いです。本名はタオル。うちのマスコットキャラです。

ダナモ そうなのか？

タオル ノーキヤツチャー。

ダナモ 違うと言ってるも！

デミタス この森にジャコウネコがいると仰るなら、ご自身の眼でお確かめになったらどうです？

ダナモ よおし、そこまで言うなら……、行くも！

タオル キャッチャー！

ダナモ、タオル、森へ退場。

デミタス (ため息)

しばらく沈黙。

カルラ (声) デミタス……、

○明かりがセピア色になる。

赤子のコッピヲを抱えたカルラ登場。

カルラ お願い、私を森の外へ逃がして、

デミタス 出来ません……、いくらあなたの頼みでも。

カルラ この子の糞をあなたの自由にしていいから。

デミタス いけません、そんなこと。

カルラ こんな生活じゃ、この子にまともな栄養を与えることも出来ない。いずれ死ぬのよ。

デミタス だけど、無茶だ。俺がこの子を匿うなんて、すぐバレる。

カルラ 大丈夫……。ヤマネコとジャコウネコは似てる。

デミタス 確かに、やや模様が似てるかもしれないけど、

カルラ お願い、頼めるのはあなたしかいないの。

●カルラのお腹が鳴り、ひどい腹痛に見舞われる。

カルラ ああ……。 (片膝をつく)

デミタス 大丈夫ですか。

カルラ 少し、この子を預かって……。

カルラ、トイレへ退場。

●赤子のコッピヲが泣き始める。

デミタス おー、よちよち……。よちよち。

- 泣き止まないコッピヲ。
- 遠くからカルラの腹を下す音が鳴り続ける。
- コッピヲ笑い出す。

デミダス おお、お？お？ ……良かった。泣き止んでくれて……。

- カルラの腹を下す音が止む。
- 再び泣き出す、コッピヲ。

デミタス おお、よちよち……。よちよち。

- 遠くからカルラの腹を下す音。(一発)
- コッピヲ、笑う。(キャハハ)

デミタス ……連動してる。

- 水の雫が一滴垂れる音。
- カルラがトイレから戻って来る。

カルラ どう？ 答えは決まった？

デミタス 今、そういう時間だったのか？

カルラ うん、

デミタス カルラさん、俺には無理だよ。

カルラ、便器に手紙を残して退場。

カルラ デミタス、

デミタス あなたが腹を下す音で、その子が笑っていた……。カルラさん？

デミタス、便器の上に残された手紙を見つける。

○暗転。

【第2幕】 2場

木の下で携帯ゲーム機になっているキヤリメロがいる。
コッピヲ、登場。

コッピヲ ……キヤリメロちゃん？

キヤリメロ ……うん、そうだけど。

コッピヲ こんなところで何してんだよ。

キヤリメロ ゲーム。

コッピヲ そんなもんどこでもできんだろ。さ、喫茶店まで戻るよ。

キヤリメロ 嫌だ、めんどくさい。

コッピヲ そんなこと言うなよ。お父さん、心配してたよ。

キヤリメロ それがめんどくさいっつうの。

コッピヲ 心配する親のことそんな風に言うなよ。

キヤリメロ だって、自分の好きなこと押し付けて来るんだもん。

コッピヲ ……そのゲームは？

キヤリメロ 何が？

コッピヲ そのゲーム買ってもらったんじゃないか？それも押し付けか？

キヤリメロ これはあいつじゃない。

コッピヲ え？

キヤリメロ あいつのクレカ。

コッピヲ クソガキ！ 自分で働いて買ったわけじゃねえだろ…！！ 上辺だけでもニ

コニコしとけ。どうせ自分1人じゃ何も出来ないんだから、

キヤリメロ ムカつく……。

コッピヲ 説教臭く言ってるけどなあ、おっさんだって言ってることの半分ぐらい自分

に跳ね返って来てつらいんだぞ！

キヤリメロ じゃあ、ドヤ顔で言うな！

コッピヲ ドヤらせろ！ 俺は年上だぞ！

キヤリメロ めんどくせえおっさん……。

コッピヲ こっちだって仕事増やされて迷惑してんだよ……。

間

コッピヲ お父さんってどんな人？

キヤリメロ キツネ……。本当の親子じゃないんだ。

コッピヲ ……もしかして刷り込み。
キヤリメロ そう……。それが私の本能。
コッピヲ ……。
キヤリメロ あいつと出会ったのは、私がまだ卵の頃、本当は食べようとしたらしいんだけど……。運悪く卵の私が孵ったんだって。
コッピヲ ……良かったな。食べられなくて、
キヤリメロ いっそのこと殺して欲しかったよ……。今でも、私を食べたくなる衝動に駆られるんだって……。
コッピヲ え！？

間

キヤリメロ 昨日の夜も襲われかけた。
コッピヲ なるほど。それで、今、距離置きたかったんだな……。
キヤリメロ ま、仕方ないよね。あいつは肉食獣だから……。私を食べたくなるのも本能だし。
コッピヲ それはそうだけど、
キヤリメロ 私は本能であいつのこと親だって思ってるけど、あいつは本能に逆らって、私のこと娘だと思いつつも……。私があいつを苦しめてるんだよ……。
そんな自分が嫌になる。
コッピヲ ……分かるよ。
キヤリメロ 知ったような口利くな。
コッピヲ ……。だって、俺も、家族と血い繋がって無いんだわ……。
キヤリメロ え？
コッピヲ 物心ついた時から傍にいたら、そいつを親だと思っちゃまうよな。妙に優しくしてくるしよお、
キヤリメロ 過保護なんだよねえ。
コッピヲ そうそう。
キヤリメロ ……。うちのキツネもさ、父親らしく振舞おうとするから、うっとうしいんだよね……。得意でも無いのに、無理にキャンプしようとか言い出す辺りとかさあ。
コッピヲ めんどくせえな、おめえの父ちゃん。
キヤリメロ それが家族サービスだと思って一生懸命やってるの。見てるこっちはずっとね、気持ち引いてくのにな……。
コッピヲ 俺の父ちゃんもさ、父親面してこのキャンプ場に就職させようとするんだよなあ。

キャリメロ 悪気があるわけじゃないんだろうね。
コッピヲ お前の父ちゃんもな、

間

コッピヲ ……とりあえず謝つとく？
キャリメロ うん…。
コッピヲ 一緒に行こうぜ。

コッピヲ、キャリメロ、喫茶店へ戻って来る。

喫茶店にはイナリ、カモミールがいる。

カモミール ああ、良かった。
イナリ キャリメロ…。
キャリメロ キツネ…。
カモミール コッピヲ坊ちやま、お手柄ですよ。
コッピヲ ありがとう。
イナリ ……そうだ。仕事があつたんだ。
キャリメロ えっ
イナリ カモミールさん、コッピヲくんと話があるので、ちよつとこの子見てもら
えますか。
キャリメロ あ、ああ、
カモミール はい…。行きましょう。

カモミール、キャリメロ、退場。

コッピヲ 何ですか仕事の話って…。
イナリ 読んだよ、君の漫画。
コッピヲ へ？
イナリ 面白かった…。是非、君の担当編集をさせて欲しい。
コッピヲ ええ！？
イナリ 君のその才能を磨けば、半年以内には本誌連載も夢じゃない！
コッピヲ ちよつと待って下さい…。僕のブログ読んでくれたんですか？
イナリ なんだそれは？
コッピヲ 糞山糞二郎のウンコ製造日記。
イナリ は？

コッピヲ 違うのか。

イナリ それはよく分からないけど、コレだよ。君が書いた奴（単行本の漫画を渡す。）

コッピヲ 俺が書いた絵じゃない……、母さん。

ベローチェ、登場。

ベローチェ ごめんなさい。

イナリ え？どういうことですか？

コッピヲ 自分で説明しろよ。

ベローチェ この本は、この子の漫画を元に私が書いた……。

コッピヲ はっきり言えよ！

ベローチェ 同人誌です。

イナリ ええ！？

コッピヲ どうしてそんな余計なことをするんだ！

ベローチェ だって、あなた、いつも二言目には「売りたい。売りたい」って言うから、お母さん、あなたがかわいそうで仕方なくてね。少しでもそのお手伝いをしたかった。

コッピヲ もう止めてって言ったよね……。

ベローチェ あなたを思ってたことよ。

コッピヲ そういうのがうっとおしいんだよ！ ……なんで なんで母ちゃんが書いた

漫画の方が面白んだよお！

ベローチェ そんなことないわ。

コッピヲ 母ちゃんには才能あるんだよ！

ベローチェ 私に才能なんかあるはず無いじゃない。コッピヲの漫画に比べたらこんなの
ただのラクガキでしょ。

コッピヲ また殴りたいのか！？

デミタス、登場。

デミタス やめなさい、コッピヲ。

コッピヲ 父ちゃん、

デミタス ……母さん、またコッピヲの同人誌を書いてしまったのか。

ベローチェ だって、この子がかわいそうじゃない。

デミタス 2人共、もう漫画なんて止めなさい。食ってけないじゃないか。

ベローチェ 失礼でしょ。この子が真面目にやってるのに！

デミタス コッピワはな、まともな職についての方が幸せなんだ。
ベローチェ それはあなたの理想を押し付けてるだけでしょ。

デミタス 母さんだって、何がしたいんだ！

コッピワ 放つといってくれよ！ 自分の生き方ぐらい自分で決めさせるよ！

ベローチェ 放つとけないわよ。親子なんだから、

コッピワ ……ホントの親子じゃ無いんだろ……。

間

ベローチェ ……。

デミタス ……何を言ってるんだ。

コッピワ ばあちゃん家でたまたま見つけちゃったんだよ……。父ちゃんに宛てた手紙を。

カルラ、登場。

カルラ デミタス、ごめんなさい。もう私はどうしても耐えられないの……。コッピ

ワ……、自分勝手なお母さんを許してね。

カルラ、退場。

コッピワ どうして今まで黙ってたんだよ……。

デミタス す、すまん……。いつかは、伝えるつもりだったんだ……。ただ、

ベローチェ お前のかわいい顔を見ると、伝えるのがつらくてねえ……。

コッピワ ……。

デミタス カルラさんからお前を譲り受けた時、この子を大切に育てようと、2人で誓ったんだ。けど大切に思うあまり、今までお前を甘やかし過ぎたんだと思う。今お前が自立出来ないのは、俺と母さんのせいだ。だから、最後まで責任持たなきゃいけないと思ったんだが、却ってお前を苦しめてしまったな。すまない。

間

デミタス もう、森を出て、自由にしていぞ……。

コッピワ 父ちゃん、

デミタス 漫画も好きに書けばいい。いずれお前の面倒も見れなくなる……。

ベローチェ そうね……。もう大人だもんね……。
デミタス 都会へ戻りなさい。

間

コッピヲ ……いや……。森に残るよ。
デミタス コッピヲ……。
コッピヲ 彼女とも音信不通だから、戻る理由も無くなっちゃったんだよね。それに自分の夢の後始末つけなきゃ。
ベローチェ また一緒に暮らせるの？
コッピヲ うん……。血が繋がって無くても家族は家族だ。

間

コッピヲ イナリさん、
イナリ あ、はい。
コッピヲ あなたが評価した才能は、俺じゃありません。悪いけど、担当編集の申し出は断らせて下さい。
イナリ えー！ ちょっと待ってくれよ！
コッピヲ でも、これは母さんの作品なんで。
イナリ このキャラクターを書いたのは、君なんだろう？
コッピヲ そうですけど、
イナリ なら、大丈夫じゃないか？お母さんが書いたキャラクターなら、この本はお母さんの作品だけど、これ、ひよっとしたら、原作がコッピヲくんの漫画とも言えるんじゃないか。
コッピヲ いや、どうかな。
イナリ どうだ、共作ペンネームで親子揃って漫画家デビューというのは、
コッピヲ 言ってる意味が分かりません。
イナリ ゆでたまごとか、藤子不二雄とかそんな感じにすればいいじゃないか。
ベローチェ いいんじゃないの？
コッピヲ えっ
デミタス そうだな、母さんが一緒なら安心だな。
コッピヲ ……分かりました。よろしくお願いします。
イナリ よっしゃー！

ソロキャンパー、登場。

ソロ デミタスさん、デミタスさん！ キャリメロちゃんが見つかったんだって

な！ めでたいことだし、喜びのキャンプファイヤーするべ。

デミタス ああ、いいですねえ。

ソロ もうスタンバイしていいべ？

デミタス OK 牧場。

ソロ おっしや！ 忙しくなって来たべ……。カモンベイべく！

一同とキャリメロ、登場。

キャリメロ キツネ、

イナリ ……。

キャリメロ キャンプファイヤーしよ。薪もいっぱい必要だろうし……。出番だよ。

イナリ 昨日はごめんなあ！

一同、キャンプファイヤーの準備に入る。

【第2幕】 3場

キャンプファイヤーを取り囲む一同。

この森に伝わる「一杯のコーヒー」を歌い始める。

一同、盛り上がる。

キャリメロ キャンプファイヤーってテンション上がるねえ……。

イナリ そうなんだよお。

アブラハム (炎を見上げながら) ローストポークになりてえ……。

マニキュア 止めときなさい。窯焼きピザ体験の時も窯に飛び込もうとして、迷惑掛け

たでしょ、

アブラハム ブヒイ……。

タオル、登場。

タオル スーサカーサ キーサコーン

スーサカーサ キーサコーン

マニキュア あっ！ ダンシングキャッチャー族だ！

アブラハム 珍しいねえ。

カモミール 記念写真を撮るなら今がチャンスですよ！

タオル、コッピラの傍に寄る。

タオル (コッピラのケツの匂いを嗅ぎ) ジャコウネコ、ニーブラ！ ニーブラ！

ジャコウネコ！

ダナモ ジャコウネコだと……！

カルデイ 俺が追い求めたコーヒー豆を産む猫！

タオル ダンジョン！ フィーサキー ドゥーサ ディーサー・サ・コンサ！

コッピラ (リズムに釣られて乗り始める。)

タオル ダンジョン！ フィーサキー ドゥーサ ディーサー・サ・コンサ！

カルデイ 危ない！

カルデイ、コッピラの頭を叩き、正気に戻させる。

次にダンシングキャッチャー族の捕獲を阻止しようと、カルデイもリズムに乗って
対抗を始める。

2人 ダンジョン！ フィーサキー ドゥーサ デイーサー・サ・コンサ！
 ダンジョン！ フィーサキー ドゥーサ デイーサー・サ・コンサ！
 アツ
 エツ？
 ダンジョン！ ー
 ハーッ！
 フィーサキ
 ダッ！
 ドゥーサ デイーサー・サ・コンサ！
 ガーッ！
 ダンジョン！ フィーサキー ドゥーサ デイーサー・サ・コンサ！
 アーッ！
 ダンジョン！ フィーザキー ドゥーサ デイーサー・サ・コンサ！ ニーブ
 ラ！
 ニーブ コンサ・ニーブ
 ガーッ！
 タオル

●「神々の詩」が流れる。

コツピラ ……何が起こったんだ……。誰か説明してくれないか。
 カモミール まず、坊ちやまはダンシングキヤツチャー族に伝わる呪文の詠唱により催眠
 状態に掛かりました。
 カルデイ 危なかったな。
 カモミール カルデイさんの介入が無ければ、坊ちやまは死んでましたよ。
 コツピラ え！？
 カモミール そして、カルデイさんとダンシングキヤツチャー族の間で獲物の取り合いが
 起こり、見事、カルデイさんが勝利を収めたのです。

拍手が起こる。

ジャスミン 待って！ どうしてコツピがダンシングキヤツチャー族に狙われたの？
 カモミール にわかには信じ難いですが、坊ちやまはヤマネコではなく、
 カルデイ 便獣だあ！ 35年ぶりに便獣・ジャコウネコが森に現れたぞお！

一同、ざわめく。

スジャータ　なんだその下品な生き物は……。兄ちゃんはヤマネコだよね？
コッピヲ　……。

スジャータ　何か言つてよ。

カルデイ　なるほど、辻褄が合つて来た。

ネスカフェ　全然話についていけないんだけど、どういうこと？

カモミール　しつ、これから大事な話が始まるから静かに聞きなさい。

カルデイ　35年前、絶滅危惧種に指定された便獣・ジャコウネコのカルラと、その子が行方不明になる事件があつた。そうですよ？ダナモさん。

ダナモ　そうだなも。このキャンプ場が出来る随分前の話だなも。

カルデイ　ジャコウネコ一族の糞は高級コーヒー豆として巨万の富を生むとされている。

デミタス　そんなの言いがかりだ。

カルデイ　こいつの鼻が何よりの証拠なんだよ！

タオル　キャッチャー！

ダナモ　なるほど、ジャコウネコの子供をヤマネコとして育てあげるなんて手の込んだ偽装だなもなあ。

スジャータ　父ちゃん、母ちゃん、まさかそんなはず無いよね。

コッピヲ　違う！ 2人はカルラさんに頼まれて仕方なく。

カルデイ　いいえ！ そんなはずありません！ 坊ちやま、心当たりないですか？ 自

分の糞に近づく存在に。

ベローチェ　コッピヲ聞いちやダメ！

コッピヲ　自分の糞……？

コッピヲ　コッピヲの脳裏に過去のベローチェの声がよぎる。

ベロ（声）　用を足した後にトイレを流しちゃダメよ。水が勿体ないからね。

コッピヲ　……まさか、母ちゃん……。

ベローチェ　違うの！ トイレの水を流すと限りある地球の資源がもつたいないから、

コッピヲ　昔から僕にそう教え込んで来たけど、排泄後の糞が欲しかっただけじゃない

か？

カルデイ　そうやって糞の利益を独占していたんだな！

ネスカフェ　両親が過保護なものそのせいだったのか！

コッピヲ　あと、豆以外全部アレルギーって言われて、コーヒーの実以外食べさせても

らえなかった！

カルデイ　もう言い訳出来ねえな！

コッピヲ　もう言い訳出来ねえな！

カルデイ　もう言い訳出来ねえな！

コッピヲ　もう言い訳出来ねえな！

カルデイ　もう言い訳出来ねえな！

コッピヲ　もう言い訳出来ねえな！

カルデイ　もう言い訳出来ねえな！

コッピヲ　もう言い訳出来ねえな！

カルデイ　もう言い訳出来ねえな！

コッピヲ　もう言い訳出来ねえな！

デミタス ……コッピヲ、冷静に考えてみてくれ。だったら、何故お前が一人都会で暮らすことを許してたんだけ？糞の利益が欲しいなら、なんとしてでもお前を森に連れ戻そうとするはずだろ。

全員 そうだ！ そうだ！

カルデイ 見張りでもつけてたんじゃないのか！

デミタス しつこいぞ！

コッピヲ 見張り？ え？

ジャスミン どうしたの？コッピ

コッピヲ まさか、そんなはずない

カルデイ 些細なことでもいいから話してごらん。

コッピヲ 嘘だよね…：父ちゃん、母ちゃん

デミタス ……

ベローチェ コッピヲ……。

カルデイ どうした！？ 何に気づいたんだ！？

コッピヲ 「都会」で生活していた時、僕が用を足した後、必ず彼女が用を足していた。彼女を利用して、糞を実家まで送らせていたのか！？

デミタス ……。

ベローチェ ……。

コッピヲ 何とか言つてよ！

アブラハム ……（ぼそっと）もう、我慢できない。

デミタス あれはレンタル彼女だ……。

全員 え！？

スジャータ やっぱり……。

デミタス ……お前に彼女が出来るはずがなからう。

急にコッピヲのお腹から大きな音が鳴り、その場で脱糞をする。

そのウンコをカルデイ、ダナモ、タオルに投げつける。

コッピヲ ひれ伏せ。

カルデイ、ダナモ、タオル、コッピヲにひれ伏す。

カルデイ ご命令をなんなりと。

コッピヲ 糞に集る蠅どもを森の外へ！

カルデイ、ダナモ、タオルはデミタスとベローチェを森の外へ連行。

ベローチエ コッピヲ!

スジャータ 父さん! 母さん! どうして!?

コッピヲ ……俺はジャコウネコだ…。

アブラハム 俺はローストポークだ…!! うおおおお!!!!

●アブラハムがキャンプファイヤーに突っ込み炎が大きく燃え盛る。

マニキュア 糞豚あああ!

○暗転

【第3幕】 1場

○カモミールにサスが当たる。

カモミール こうして、森の真実が明らかとなりました。コッピヲ坊っちゃまには「漫画」の才能はありませんでしたが、金を産む才能はあったのです。糞の力を使って巨万の富を手にした坊っちゃまは、野晒しの森に『臭英社』という出版社を創設。自身の漫画の出版に向けて、再び筆を執るのでした。今から皆様にお見せするのは、夢を金で買おうとした愚か者の末路です……。

喫茶店のカウンターにカルデイ、タオル、コッピヲがいる。

カルデイ さあ、召し上げれ。

タオル、カルデイのコーヒーを飲む。

カルデイ どうです？

●「めざめ」が流れる。

タオル フルーティーな香り……。クセのある酸味とこの香味が堪らないわ……。上品と下品を併せ持つコーヒー。これが、コピルアーク。
カルデイ ダンシングキャッチャー族は、ジャコウネコを狩り、コピルアークを手に入れる事で成人になれる。
タオル 私、勘違いしてた……。はらわたを切り裂いて豆を手に入れようとしたけど、ウンコで良かったのね。

コッピヲ、登場。

コッピヲ お気に召しましたか？俺のウンコ。
タオル ありがとう！ コッピヲ！ これで成人になれた！
コッピヲ わあ、喋った！
カルデイ 坊っちゃま、私はようやくよくコーヒーの神髄に触れる事が出来ました。これもあなたの糞のお陰です。
コッピヲ 2人の夢が叶って俺も嬉しいよ。

カルデイ 次の排泄はいつなされますか？
コッピヲ そんなすぐ出ないよ。
カルデイ もっと、もっとコーヒーを極めたいのです！ 何卒よろしくお願い致します！
コッピヲ 分かったよ。

管理棟よりタンゴ、登場。

カルデイ いらつしやいませ。
タオル あ、人間。
タンゴ ……。
コッピヲ ……。(自分の顔を引っぱたく)
カルデイ ……坊ちやま？
コッピヲ 夢じゃない。
タオル ……知り合いか？
タンゴ まあ、
コッピヲ どうかしたの？
タンゴ あなたの両親に用があるの…、
コッピヲ え、
突然支払いが止まったから、
コッピヲ ああ、そう。
タンゴ うん、

カルデイ、タオル、空気を読んで退場。

コッピヲ 代わりに俺が払うよ。
タンゴ あなたに払えるわけないじゃない。
コッピヲ いくら欲しい？
タンゴ 何でそうやって見栄を張るかな。
コッピヲ いいから、

タンゴ、コッピヲに請求書を渡す。

コッピヲ (目を通して) ……ガツツリ請求するね。
タンゴ そのぐらいあなたの世話してあげたつもりだけど、
コッピヲ まあ、いいや。ちよっと待ってて…。

タンゴ ……本当に払えるんでしょうね？
コッピヲ 払うよ。コピルアークがあるから、

コッピヲ、退場。

タンゴが喫茶店の椅子に座って待っていると、管理棟よりネスカフェ、ジャスミン、
登場。

ジャスミン 人間だ……。人間がいるよ。ネス姉。

ネスカフェ コッピが「都会」にいた頃の彼女さんじゃない？

ジャスミン その節はコッピがお世話になりました。

タンゴ ……彼女じゃないです。

ジャスミン そうだ、レンタル彼女だった。

ネスカフェ レンタル彼女ってなに？

ジャスミン アレだよ……。レンタルする彼女だよ。

ネスカフェ ははは、何それ？

ジャスミン ……笑っちゃ失礼じゃない、ネス姉。

ネスカフェ 結局、コッピの何なの？

タンゴ ……(悩んだ挙句) ジャコウネコの、飼い主。

ネスカフェ は？

タンゴ ……そういう仕事なんです。お金のためにやってた事なんです。

コッピヲが喫茶店に戻って来る。

コッピヲ ……今、大事な話してるから、ちよつと外してくれないか。

ネスカフェ コッピ！ こんなのろくな女じゃないよ！ 別れて正解！

ジャスミン すみません！ すみません！

ネスカフェ、ジャスミン、森へ退場。

コッピヲ、タンゴに現金を渡す。

コッピヲ 悪いけど、この辺に銀行とか無いから、自分で数えてくれ。

タンゴ りよーかい、

タンゴ、現金を数え始める。

コッピヲ 昔さあ、俺が困ってる時、よく漫画の相談に乗ってくれたじゃん。

タンゴ ……
コッピヲ それも親から頼まれてた？
タンゴ ……
コッピヲ なら、漫画の相談料もそれに含まれてるのか？
タンゴ ……さあ。
コッピヲ 俺の漫画のファンっていうのも嘘だったのかよ。
タンゴ 話し掛けないで。いくらか分からなくなるから、

タンゴ、現金を数え終える。

コッピヲ なあ…、結婚してくれ。
タンゴ ……何言ってるの？
コッピヲ いや、分かんないけど、
タンゴ 分からないなら言わないで。もう精算済ませちゃったから、じゃ、
コッピヲ 言えなかったんだよ。今まで、
タンゴ ……は？
コッピヲ だから、今伝えておきたかったの。
タンゴ 言う機会なんていくらでもあったんじゃないの？
コッピヲ それはそうだけど…、でも、
タンゴ 自分に自信が持てなかったから？
コッピヲ ……
タンゴ いつ食えるようになるか分からないから。いつ自立できるか分からないから。
コッピヲ そうやって、答えを先送りにして現実から逃げてたんでしょ。
タンゴ なんだよ、そんな怒んなよ。俺だって自分なりに考えてたんだよ。
コッピヲ ……呆れた。
コッピヲ 今なら言えると思って。今は自分の力で稼いだ金で生活してる。頼む、結婚
タンゴ してくれ。
コッピヲ 無理よ。
タンゴ どうして？
コッピヲ あなた、猫でしょ
コッピヲ え、
タンゴ ペットは飼い主と結婚できないでしょ。
コッピヲ ……ペットじゃなくて、俺を1人の男として見てくれよ。
タンゴ ごめんなさい…。

タンゴ、退場。

コッピヲ　　にやああああん……。にやああああん……。

イナリ、登場。

イナリ　　コッピヲさん、

コッピヲ　　イナリ編集長。

イナリ　　原稿の進捗を伺いに参りました。

コッピヲ　　書けてる。書けてるよ。今、80枚ぐらい。

イナリ　　もう少しペースを上げねばなりませんね。

コッピヲ　　分かった。

イナリ　　来月には約10万部が各コンビニに並ぶことでしょう……。1人の漫画家による新作連載のみが掲載される月刊誌なんて今まで例がない！ あなたの才能と、その経済力があれば出来る！

コッピヲ　　……頑張るよ。

イナリ　　頼みますよ。

イナリ、退場。

ダナモと首輪をつけたアブラハム、登場。

ダナモ　　コッピヲくん、高級豚を捕獲したも。来月の創刊記念パーティーはコイツを捌いて食べるも。

コッピヲ　　お前、マニキュアはどうしたんだよ。

アブラハム　　あいつ、浮気しやがったんだ……！俺が入院してる間にチキンナゲットに手を出したんだ！鳥肉に手を出すなんて許せねえ！

コッピヲ　　お前、マニキュアに食われたくて、頑張ってたんじゃないのか。

アブラハム　　知らねえよ。あんな女……。なあ、コッピヲ、お前、俺のこと食ってくれないか。もう誰でもいいや。

コッピヲ　　見損なったぞ。

アブラハム　　シェフ……？シェフ……！！

アブラハム、退場。

ダナモ　　コッピヲくん、僕が提案した『出版社増築プラン』順調に行ってるも？

コッピヲ　　はい。

ダナモ　　それは良かったなも。君の夢を叶えるために、素敵な出版社にして欲しいも。

コッピヲ ありがとうございます。

ダナモ もっとローンを組めば、さらに大きなプランを提案できるも。「アニメ化プラン」「実写映画化プラン」。君の素敵な夢を膨らませる素敵なプランがまだまだあるも。

コッピヲ そうですか。

ダナモ そのためには先立つものが必要だなも。忙しくなってくるもね、コッピヲくん。

コッピ ……はい。

ダナモ 夢を叶えたいや、出せ、出せ、出せ。

コッピヲ、お腹を押さえてその場に倒れ込む。

【第3幕】 2場

○カモミールにサスがあたる。

カモミール 順風満帆に見えたコッピヲ坊っちゃまですが、コッピヲマガジンはまったく売れませんでした……。ストレスにより便秘気味になった坊っちゃまは、コピルアークが出せなくなり、多額の負債を抱え、臭英社は倒産。それに伴いキャンプ場の閉鎖も決まりました。そして坊っちゃまは出版社増築プランのローン返済に追われる日々。こうして、統治者を失った野晒しの森は秩序を失い、本能から解き放たれた動物達が牙を剥き始めるのです。

カモミール、退場。

夜、闇深い森の中にキヤリメロ、登場。

キヤリメロ ……おーい、キツネー……。どこ行っちゃったんだよ……。

マニキュア、登場。

キヤリメロ ……あ、

マニキュア どうかしたの？

キヤリメロ いえ、別に……。

マニキュア (袖の方に何かを見つけ) ……あ、ヤバい。

キヤリメロ え？

身の危険を感じたキヤリメロ、マニキュア、身を隠す。

猟銃を構えたタオル、登場。

タオル ……スーサカーサキーサコーン……。

タオル、退場。

マニキュア 物騒になって来たわね。

キヤリメロ ……うん。

マニキュア お嬢ちゃんは、どうしてこの森に？

キヤリメロ 出版社が潰れたじゃん？キツネも編集長だったから責任を感じてて、コッピ

ヲを助けに来たんだよ……。あいつ、すぐ周りが見えなくなるからさあ、私も心配で付いて来ちゃった……。

マニキュア 一緒に探しましょう……。たぶん、同じ場所を目指してるはず。
キヤリメロ ……うん。

マニキュア、キヤリメロ、退場。

一方、廃墟となったコテージにコッピヲ、アブラハム、ダナモ、登場。

ダナモ てめえが作った借金の落とし前つけろや！

コッピヲ 堪忍して下さい、堪忍して下さい！

ダナモ 豚あ……！

アブラハム はい。

ダナモ てめえの出荷予定日が決まったぞ。

アブラハム ありがとうございます。

ダナモ 明日だ。

アブラハム 明日はちよつと待って下さいよ。

ダナモ 移植用に臓器を取って売るも！

アブラハム ちよつと待って下さいよ。それじゃ食べてもらえないじゃないですか。

ダナモ うるせえ！ てめえの肉より臓器の方が価値があんだよ！ テツポウ、シ

ロコロ、コブクロ、キャンタマ……。

ダナモ、アブラハムの股間から金玉を奪う。

アブラハム 堪忍して下さいよお！

ダナモ ジャコウネコ、お前は？

コッピヲ 内臓ですか？

ダナモ 当り前えだろ！ 腎臓100万、肝臓150万、心臓120万……どうする？

コッピヲ どれも嫌です！

ダナモ 選べや！

コッピヲ キャンタマ……！ 片玉からお願いします……。

ダナモ よう言った！

ダナモ、コッピヲの股間から金玉を奪う。

コッピヲ ぎやああああ……！！！！

ダナモ 金玉一つじゃ、まだまだ返済額に届かないも。お前も搾取し続けてやるも。

……カルラと同じように

コッピヲ え？

別空間にカルラ、登場。

過去回想。暗闇の森の中を迷っている。

ダナモ ここがキャンプ場になる前、この森はたくさんの便獣達が暮らす場所だったも。

○サーチライトの明かりがカルラを照らす。

ダナモ 僕はダンシングギャツチャー族と手を組んで1匹残らず捕まえた！

タオル ニーブラ！

カルラ ガアーツ！

カルラ、タオルの先祖に捕縛される。

カルラ や、やめて。

ダナモ ……僕はね、便獣たちが腹を下す音が好きなんだも……。天からお金が降ってくるような幸せな気持ちになれるも。

ダナモとタオルの先祖、懐から下剤を取り出してコッピヲとカルラにそれぞれ飲ませようとする。

ダナモ さあ、下剤を飲むも。

カルラ や、やめて……。。

コッピカル うわああああ！！

下剤を飲まされるコッピヲとカルラ

●コッピヲとカルラが腹を下す音。

ダナモ 再びこの森に戻ってくれて嬉しいよ。コッピヲくん。

ダナモ、タオルの先祖、退場。

コッピヲは急いでトイレに駆け込む。

●地響きのような排泄音。

コッピラの排泄の様子をカルラが悲しそうに見つめている。

ひとしきり排泄を終えると放心状態になるコッピラ。

●再びコッピラが腹を下す音。

コッピラ ……あはは、

●コッピラが腹を下す音。

コッピラ あはははははは、

アブラハム 大丈夫か、コッピラ。

コッピラ ……そりゃ、俺のこと、捨てるわな……。だって、つらいもん……。

カルラ、退場。

コッピラ なんでジャコウネコなんか生まれただろ……。こんな呪われた生まれで

なけりゃ、彼女に裏切られたり、嘘の家族に騙されなくて済んだのに……。

建物の外からソロキャンパーの音がする。

ソロ 糞のお陰で一度は夢を叶えたんじゃないか？

コッピラ だけど、タンゴは振り向いてくれなかった……。俺は何がしたかったんだろ

う……。俺の存在価値は糞だけなのか？

ソロ おめえの両親、実の息子のように育ててくれたはずだと思うぞ。

コッピラ 金に眼が眩んで俺を育てたのは、事実だろ。

ソロ そうかもしれないが、もしヤマネコとして育てられなかったらどうなっ

た？2人が路頭に迷っておめえ手放したら、どうなってた？

コッピラ ……。

ソロ 今みてえに、金に眼が眩んだ連中相手に糞を出し続ける一生だったかもしれ

ねえぞ。実際、カルラさんもそうだったろ？

コッピラ ……。

ソロ 両親の愛が無かったら、お前え、ここまで生きてねえぞ。

コッピラ ……父ちゃん、母ちゃん……。疑ってごめんなさい……。邪な気持ちがあっ

て嘘をついたんじゃないかって、僕をこの世界から守ってくれてたんだね……。

ソロ ……あれから両親に謝まったか？

コッピラ いいや、まだ。

ソロ 一緒に謝りに行くべ。

ソロ キャンパーが部屋の中に入って来る。

ソロ ほら、コレ、食って元氣出すべ。(2人に食べ物渡す。)

コッピヲ ありがとうございます。

ソロ 礼には及ばねえべ。それ食ったら森から脱出するべ。

コッピヲ どうしてそこまで、

ソロ おら、実はこういうもんだべ。

ソロ、コッピヲに警察手帳を見せる。

コッピヲ 警察……？

ソロ 35年前の事件をずっと追ってたんだ。とうとう尻尾を掴んだ。これから君を森の外に出すから、警察署で証言してくれ。糞に塗れたこの森の歴史を。

コッピヲ 分かりました。

●外で銃声が響く。

ソロ 行くべ。

コッピヲ、アブラハム、ソロキャンパーの誘導でコテージの外へ退場。
しばらくして、ダナモ、登場。

ダナモ 奴隷が逃げたも！ 今度は絶対に逃さないも！

カルデイ、登場。

カルデイ ダナモさん、

ダナモ カルデイさん、どうしたも。こんなところで、

カルデイ コッピヲ坊ちやまを返して頂きましょうか。

ダナモ 取り返してどうするも？

カルデイ 喫茶店が開けません。

ダナモ そんなこと、どうでもいいも。

カルデイ コピルアークが無えと、俺が理想とする最強のコーヒー「カルデイブレンド」

が完成しねえんだよ！

ダナモ 豆を求め本能に踊らされた悲しき鳩め。

カルデイ 黙れ！ 俺はこれからもおいしいコーヒーを提供し続けるのだ！

●突然の銃声。

猟銃を構えたタオル、登場。

カルデイ お前も糞が欲しいのか。

タオル キャッチャー……。

カルデイ 狩りの本能から逃れられない悲しき狩人め。

斧を持ったネスカフェとジャスミン、登場。

ネスカフェ ジャスミン、あたし、コッピヲを助けたんだけど、どうすりゃいい？

ジャスミン 簡単よ、ネス姉。斧でアイツら全員の頭カチ割ればいいのよ。

ネスカフェ なるほど……薪割りと一緒じゃねえか！

カルデイ よろしい。コッピヲの糞を賭けて大乱闘ですな。

ジャスミン ネス姉、今こそ本能を解き放って戦う時よ。

ネスカフェ コロス！

タオル キャッチャー！

ダナモ 勝者のみがコッピヲの糞をGETだぜー！

全員 うおおおおお！！！！

全員、その場から退場。

●銃声が鳴り響く中、テントからスジャータが出て来る。

スジャータ 森で何が起こってんだよ！ こえーよ！

空よりカモミールの声がする。

カモ（声） 森が物騒になって来ました。逃げましょう。

スジャータ カモミールさん、どこ？

カモ（声） 空です。皆様を森の外へお連れします。夜行性の私にお任せ下さい。

スジャータ 父ちゃん！ 母ちゃん！ カモミールさんが逃げろって！ 空からあ！

スジャータ、テントの中へ退場。

ソロキャンパー、コッピヲ、アブラハム、登場。

アブラハム ……マニキュアちゃんの匂いだ！

アブラハム、退場。

コッピヲ どこ行くんだ！ 豚あ！

アブラハム、退場。

入れ替わりでタオル、登場。

タオル キヤツチャー！

コッピヲ ギャー！

ソロ う、う、う、

ソロキャンパー、血の涙を流す。

コッピヲ 目から血の涙〜！

タオル キヤ、キヤ〜！

タオル、退場。

コッピヲ 大丈夫？

ソロ ツノトカゲ流の威嚇だべ。さあ、行くべ。

コッピヲ、ソロ、退場。

マニキュア、キヤリメロ、登場。

キヤリメロ ……ねえ、どこに向かっているの！？

マニキュア ムカッテルワヨ、チャント。

キヤリメロ なら、いいんだけど、

マニキュア ワタシノイブクロニ…。

●ジャキーン！

キヤリメロに鋭い爪を見せた。

キヤリメロ　ぎゃく！

マニキュア　オナカスイタ……。

キヤリメロ　お前もか！　どいつもこいつも自制心無えのかよ！

マニキュア　オナカスイタ！

キヤリメロ　……た、助けてお父さあん！！

イナリ、登場。

イナリ　キヤリメロく！

襲い掛かろうとするマニキュアを力で制するイナリ。

イナリ　もうこんなこと止めようぜ！　お前だって本能に縛られてうんざりしてるんだろ！？

マニキュア　うっ！

イナリ　僕も肉食獣だ！　お前の気持ち分かるぜ！

マニキュア　あ、あ、あ

イナリ　欲に負けてまた過ちを重ねる気かこの野郎！

マニキュア　うっさい！

マニキュア、イナリを切り裂く。

キヤリメロ　お父さん！

アブラハム、登場。

アブラハム　マニキュアく！　屠畜場へ行こう。

マニキュア　……。

アブラハム　俺、生きて森から出て、屠畜場で食肉になるからく！

マニキュア　アブラハム……。

アブラハム　その鶏肉には手を出さないでくれく！

マニキュア　う、浮気してごめんなさい！

2人、抱擁。

キヤリメロ　お、お父さくん！

イナリ ……大丈夫だ。

イナリ、懐からゲームボーイを取り出す。

イナリ お前のために買ったゲームボーイが守ってくれたよ……。

イナリ、ゲームボーイの電源を入れると起動音が鳴る。

キヤリメロ 流石、任天堂の初代ゲーム機。衝撃には強い。

イナリ ……今、お父さんって言ったか？

キヤリメロ ……言ってるねえし。

●銃声

イナリ この森は危険だ！

イナリ、キヤリメロ、マニキュア、アブラハム、退場。

カモミール、スジャータ、デミタス、ベローチェ、登場。

向かい側より猟銃を構えたタオル、登場。

タオル キヤツチャー、

カモミール コツピヲ坊ちやまの居場所なんか知りませんよ！

スジャータ うおおおおお！！

スジャータ、タオルが持っている猟銃を掴んで、揉み合いになる。

スジャータ ここは僕に任せて！

ベローチェ スジャータ！

カモミール、デミタス、ベローチェを連れて退場。

スジャータ、タオルと揉みくちやになっている内に猟銃を奪ってしまう。

スジャータ 猟銃取っちゃった！

タオル ノーキヤツチャー！

猟銃を持ったスジャータとそれを追ってタオル、退場。

コッピヲ、ソロキャンパー、登場。

向かい側よりカモミール、ベローチエ、デミタス、登場。

ソロ　　デミタスさん！

ベローチエ　コッピヲ！

コッピヲ　　母ちゃん！

　　コーヒーポットを持ったカルデイ、登場。

カモミール　カルデイさん、

　　ジャスミン、登場。

ジャスミン　コッピ、逃げて……。ここは私が堰き止めるから、

コッピヲ　　何言ってるんだ、お前。

ジャスミン　そいつはもう、みんなが知ってるカルデイさんじゃない。

カルデイ　　うるせえ！

　　カルデイ、コーヒーポットの中身をジャスミンに食らわせる！

ジャスミン　キヤー！

コッピヲ　　ジャスミン・ビーバー！

カモミール　何てことするの！？

カルデイ　　カモミールさん……。俺、分かったんだ。どうしたら、みんなに一息ついてもらえるか分かったんだ。

ソロ　　何言ってるんだべ？コイツ？

カルデイ　　……死だ。死こそ最高の安らぎ。最高のトリップ！

カモミール　そんなことしなくても、あなたのコーヒーは美味しかったじゃない！

全員　　え！？

カルデイ　　うるせえ！　コッピヲ！　てめえの糞は俺のもんだ！　ダナモはもういね

え、俺が一息つかせてやった！

ソロ　　愚かな……。う、う、う、血のビーム！

　　ソロキャンパー、血の涙をカルデイに向けて飛ばした。

カルデイ　　（胸を押さえて）ぐっ！

コッピヲ　めっちゃ効いてる！

ソロキャンパー倒れる。

コッピヲ　え！？

ソロ　貧血だべ。

コッピヲ　捨て身の攻撃だったのね！

カルデイ　俺のコーヒーをくらえ！

カルデイ、コーヒーポットの中身をコッピヲに食らわせようとするが、アブラハムが登場し、コッピヲを庇う。

アブラヒモ　ブヒク！！！！

コッピヲ　フビライ・ハン！

アブラハム、倒れる。

カルデイ　次こそてめえにとどめを刺してやる！

ベローチェ　この子を殺る前に私をやりなさい！

コッピヲ　母ちゃん！

デミタス　いや、その前に俺をやってくれ！

コッピヲ　父ちゃん！

カモミール　2人共、危険ですって。

コッピヲ　カルデイ、いや、スカトロ変態野郎！俺はもう逃げも隠れもしねえ！お

前えを倒す！

カルデイ　やれるもんならやってみろ！ボンボンの坊っちゃんが！

コッピヲ、退場。

カモミール　糞野郎！

カルデイ　やはりただの腰抜けだったようだな！まずは、貴様らから始末してやる。

バクマン、登場。

バクマン　トラパンチ！

カルデイ　ぐわぁ！

コッピラ 俺は、今まで自分がして来たことを信じる！

ベローチェ あ、あれはコッピラなの？バクマンなの？

アブラハム コッピラはバクマンに成り切って戦っているんだ！

カモミール もうヤケクソってことね！

コッピラ ベアタックル！ エレフアントノーズ！ サイアイ！

ネスカフェ、登場。

ネスカフェ サーバルアックス！

ソロ トカゲビーム！

マニキュア、登場。

マニキュア ウルフヘアー！

キャリメロ、登場。

キャリメロ お父さんスイッチ、「お」

イナリ、登場。

イナリ 「お」前殺す！

●被弾音

カルデイ、倒れる。

デミタス やったな……。

カルデイ ……かぜおこし！

一同、カルデイの風に煽られる。

コッピラ うわああああ！！ 凄い風だあああ！

ソロ や、やられるく！

ジャスミン ダムバリアー！

「かぜおこし」と「ダムバリアー」が拮抗している！

アブラハム、後ろからバリアーを押し、ぐいぐい前へ進む。

アブラハム ……コッピラ！ 俺はな、本当は肉食獣を殺すために身体を鍛えてたんだ。だけど、俺の価値観を変えてくれたのは、コッピラ、お前だ！

コッピラ 思い出せない！

アブラハム 何だよ！（カルディに）ミミガー！

カルディ ぐわあ！

バクマン それでは、皆さん、一緒に！

全員 オニガワラ！

カルディ ギャー！

●爆発音。

コピバク お前に朝はもう来ない。

カルディ、倒れる。

バクマン、退場。

カモミール カルディさん！

ジャスミン ……大丈夫。気を失っているだけみたい。

ソロ （コッピラに）ほれ、何か両親に言うことがあるんじゃないか？

コッピラ 父ちゃん母ちゃん……。俺の糞を使って生活していたのは、とても許しがた
いことです。

ソロ おい、

コッピラ だけど、2人がいなければ、俺は普通の幸せを謳歌出来なかったかもしれない
せん……。今まで漫画に執着して生きて来たけど、一度筆を置いて、糞に頼
らず自分の力で生きていきたいと思えます。

ベローチェ そうね。

コッピラ 俺は、ちゃんと親離れをしたいと思います。なので、2人も子離れをして下
さい。

デミタス 分かった。

コッピラ ……血が繋がって無くても、今まで一緒に生きてきた時間とここまで育ててくれ
た御恩は一生忘れません。だから、これからは自由に生きて下さい。俺も自
由に生きていきます。

●銃声。

腹を押さえて倒れるコッピヲ。

ベローチエ コッピヲ！

猟銃を持ったスジャータ登場。

スジャータ 虫が良すぎんだよな……。何でみんな兄ちゃんにこんな甘えんだよ……。キ

ヤンプ場潰したんだぞ。コイツは、

ベローチエ スジャータ……。

デミタス 銃を降ろしなさい……。

スジャータ 俺、ずっとこのキャンプ場を継ぐ気でいたんだからな、コイツが遊んでる

間に受験勉強してたんだからな。

デミタス スジャータ……。すまない……。

スジャータ 兄ちゃんばっか、ずるいよ……。(猟銃を降ろして泣く。)

○暗転

エピソード

数か月後。「都会」

現代的な衣装を着たタオルとコッピラ、登場。

タオル

(匂いを嗅いで) あー、光化学スモッグの匂い……、バカみてえにうるさい
騒音……。ここが都会なのねえ……。森のしがらみからようやく離れて、文

明の元で暮らせる……。

コッピラ

ホントだよ。

タオル

……ジャコウネコ、ニーブラ！ ジャコウネコ、ニーブラ！

タオル、退場。

コッピラ

ちよつとお、どこ行くんだよ。

タオル、カルラをニーブラして連れて来る。

コッピラ

あ……。

カルラ

あっ

間

コッピラ

……どうも、すみません。

カルラ

いえ、

カルラ、退場。

コッピラ

……ダメだよ。知らない人に、ニーブラ。

タオル

ごめん、興奮しちゃった。

コッピラ

都会じゃ白い目で見られるから気を付けろよ。

タオル

うん。

コッピラ

じゃ、元気でな。

タオル

……またな。

タオル、退場。

コッピラはタンゴの家に向かう。

●ドアをノックする音。

タンゴ、登場。

コッピラ あの、突然すみません。

タンゴ ……。

タンゴ、ドアを閉めようとする。

コッピラ あ、ちよつと待って……。

タンゴ ……せつかく自由になったんだから、好きに生きればいいじゃん。

コッピラ そうしてる。

タンゴ 金持ってるんでしょ、あんた。

コッピラ 持っていないよ。

タンゴ ……コピルアークは？

コッピラ 出なくなっちゃった……。

タンゴ ……え。

コッピラ 撃たれた場所がそういうのを司る器官だったんだって。

タンゴ どういうこと？

コッピラ 分かんないけど、医者にそう言われたんだよ。

タンゴ ……。

コッピラ 全部失った。だから、もう一度やり直させてもらえませんか。今度はちゃん

と、何にも頼らず自分一人の力で頑張るから！

タンゴ ……漫画は？

コッピラ 書く……。けど、しつこく相談したりしないよ！

タンゴ それじゃ何も変わらないじゃん……。

コッピラ 片玉になった……。

タンゴ は？

コッピラ ……。

タンゴ ……少しの間だけね、自立出来たら出て行ってね。

コッピラ ……うん。